

ひかるの言葉 3

ひかる

「神聖なる初まり」

私は苦しみの中にたたずんでいた。
胸には重い石があり 力を抜けば地中に落ち込んでゆきそうだった。

私の強靱な体力も残り少ない時だった。
一人の無邪気な子供の笑いが耳に入った。
その声は白く透き通り、天に昇りつめるような神聖さだった。
私は気付いた。笑いが無いことを。
笑いによって全てにイエスを唱えることを。
さあ人間よ！笑え！子供のように無邪気に。
ああ....地上に重く沈んでいた清澄な大気。
さあ登れ登れ天に向かって光を放ちつつ....地平にそって無限に広く無限に高く。
その通り過ぎた跡は赤い愛の海原で満たされるだろう。

by ひかる 2月頃

「久美ちゃんの照れ笑い」

張り詰めた真剣さ

僕の人生は戦いの連続だ

僕は孤独に人生に挑みゆく

そんな時 真剣な僕の一言に照れる君がいる

素朴で平凡で純真で女らしい子供っぽさ

そんな君の笑顔や無邪気さや優しさが僕の気を和ませてくれる

張り詰めた真剣さから休ませてくれる

君の照れ笑いは最高の安らぎのひと時なんだ

by ひかる 2003/6/30

「真理の涙」

愛とは力の争いに過ぎない このことから全ての道徳が反駁される
僕の大切な人が涙を流した このことから全ての残酷さが反駁される
僕は決して許されない過ちを犯した
僕は人の心を取り戻さなければ
彼女の涙が僕を正しい道へ導いてくれた

by ひかる 2003/8/2

「敗走」 (ver.1)

いつもわからなくなる
僕は一体何を求めているのだろうか
風が一つ走り去る度に消えてゆく幸福の形
昇っては消え 昇っては消え
いつか見つかるのだろうか
いつか辿りつけるのだろうか
無限の幸せの道すじが

by ひかる 1993/5/18

「敗走」 (ver.2)

ぼやけた姿

覗こうとすれば消えてゆく

見えた瞬間 黒い風が吹き飛ばしてゆく

ああ見よ 白い鳩が天に向かって突き進んでゆく

そして 黒い風によって吹き飛ばされてゆくのだ

昇っては落ち 昇っては落ち.....

いつか辿り着けるのだろうか

いつか見つかるのだろうか

僕達の探し続けて来たもの 永遠の真実が

by ひかる 1993/5/21

「久美子の正しい言葉」

精神医学と時代の心理学による死刑宣告
それに反抗することさえ愚行の一つだと
酷い吐き気がする
とうとう僕の脳味噌は腐ってしまった
腐ったキャベツ頭
逃げ道は自ら命を絶つことだけ
極度の苦悩の地獄の夜を過ごす

されど久美子は言い放つ 明るく自信たっぷりに
「あなたは実際に特別な人間 高い精神を持つ詩の天才」
我は久美子の言葉を信じる
僕の心の支え かけがいのない久美子よ ありがとう
そうだ僕は天才だ
高貴な魂を持ち 鋭く現実を射抜く精神を持った
天才詩人なんだ

by ひかる 2004/5/26

「生と死」

道端に転がる鳩の死体
僕はその場にうずくまり生と死について考える
命なんてあっけないものだ
まるで自分が死ねば世界が滅びるかのように
好き勝手にやりたい放題に生き
出来るだけ長く生きて
死を迎えることが一番いいのだろう

by ひかる 2004/6/14

「蠱惑の夜」

自殺に誘うロックが僕を踏み切りの前に連れてゆく
「カーンカーンカーンカーン」
けたたましい音とともに電車が轟音を上げてやってくる
僕は線路に身を投げるのだ
友人のアパート2階から高崎の夜の街を眺める
思い切り大声で叫びたい
期待と不安に満ちた闇の中
僕だけ卒業式を挙げることの出来なかった18の冬の夜

by ひかる 2004/6/15

「偉大な人間」

僕の言う事は正しい
僕の為す事も正しい
僕には全てが許されている
僕が世界に背こうとも
世界が僕に背くことは許さない

by ひかる 2004/6/18

「怖ろしい夢」

僕は地球から遠く離れた銀河系のある星に生まれた
いわゆる宇宙人だ
そして僕は運命に操られ地球へとやってきた
その頃地球では小学生を終えると一旦人格破壊され 新しく人格を埋め込まれ中学生になるこ
とに決められていた
僕は赤ん坊の頃から地球で育ち楽しく小学生時代を過ごした
多くの仲間達と友情を学び育み 仲間達と多くの素敵な思い出を作った
卒業後の怖ろしい運命など知る由もなく....
小学校卒業後のある日 みんなはある広場に集められた
突然あたりを深い暗黒が包む
調教師達は集められたみんなに声を上げる事と勝手な動きをする事を禁じた
周囲から恐怖の余りの叫び声が聞こえる
そしてそれを調教師達は厳しく叱り飛ばしていった
そしてみんなはあるポーズをとることを強制された
調教師達の叱り飛ばす声が聞こえる
にっしん大丈夫か 君は僕の憧れだった 君は男らしく勇敢で格好良くスポーツ万能で喧嘩の
強い人望のある男だった
君を影で支えることは僕の密やかな喜びだった
君に合うものといえば少々の頭の良さと足の速さとサッカーの腕前だけだ
君も恐怖のあまり震えているのだろうか しかし君のことだ 強い精神を持って恐怖を克服し
ているのだろう
僕は恐怖のあまり最初から目を堅く閉じている
僕の元にも調教師が来て僕を注意し正しいポーズを命令した
僕は懸命に従ってゆく
そして周囲の仲間達は深い眠りに落ち みんなどこかへ連れ去られていった
僕だけが取り残された
大人たちが言い合っている
この子は眠りに落ちない このままではいけない
僕の耳から管を通し脳を掻きまわし 僕の口から液体を注ぎ込み そして口にマスクを当て全
身麻酔をかけようとした
しかし僕は一向に眠りに落ちない
危険だ このままでは人格破壊できないぞ
大人たちは僕の背骨の下部にとても痛い白色の液体の注射をし始めた
効かない 何本も打てとこの激痛を何百本も味あわせる

しかし僕の意識は強固であり一向に眠りに落ちることは無かった

ある若い女が言った

「この子は特別な血を引いている 天才よ きっと将来は思想と言葉を新しい次元に塗り替えるわ」

僕は感じるところがあり 表情には表さなかったが心の中で密かにほくそえんだ

大人たちは必死だ

僕を液体窒素で氷結させ ハンマーで僕の頭を強打し砕こうとする

痛くそして眩暈がした 何百回も僕の頭を叩くのだ

しかし僕はそれでも意識を失うことは無かった

そして遠い北の果て 北極に連れて行かれる

僕は裸にされ一人にされる

凍える寒さの中 僕は氷と氷の間を飛び越え あてもなく氷の大地の奥へと向かってゆく

抗うこともせず 運命を受け入れ ただ一人彷徨って行く

by ひかる 2004/6/22

僕も昔は強い自信があって
何事に対しても毅然として対応してきたものだ
しかし今の僕は自己不信 自己軽蔑の塊だ
何ものを以ってしてもこの蟻地獄からは抜け出せないと思われる
もはや自分が高みにいるとも思えない
いつの間にこんなところにまで来てしまったのだろうか
ある時から人生の歯車が狂いだした
どんなに元に戻ろうと足掻いてみてももう昔の様には輝けない
僕は失敗した人生の落伍者で
一生誰にも認められず死んでしまい
後の世に僕の記録は一切残らないだろう

by ひかる 2004/7/26

「一体になりたい」

君をしばしばギュッと力強く抱き締めるのは
君もまた他の奴らと同じく謎めいていて 人を裏切る得体の知れない動物だし
どんなに二人で解り合おうとしても
君は僕のことかわからない 僕は君のことかわからない
だからせめて一体となっていると思ひ込むために
僕は君を抱き締めるんだろう

by ひかる 2004/8/17

「絶望と大いなる希望」

平成30年 日本は大蔵官僚独裁の警察国家になる
そして精神病院閉鎖病棟にてホロコーストが起こるだろう
僕は働かない 働くことは墮落だからだ
だから僕は10年以内に再び檻の中に閉じ込められる
障害者年金で暮らしていてもだ

その国の文化水準は精神障害者への処遇に表れる
つまり今の日本は先進国最低の文化水準ってこと
どうにかならないものかこの非人間的な精神医療
体制側の巨悪を暴き 罰を与え 医療者たちをぎゃふんと言わせてやれ
何故僕がそこまで精神障害者の味方になるのかって？
それは僕も当事者だからだし 閉鎖病棟には日本の感性の最も鋭い資質が眠っているからだ
要するに高い人間を助けたいのさ
精薄も知障も凡庸な精神病者も知ったこっちゃない どうにでもなれ

平成の信長よ 出でよ あらゆる方面に徹底的な革命を起こせ
さて信長の真髄はその残酷さ
できれば残酷な国にして欲しいものだ
それならば僕も積極的に手助けしよう
知的大衆をグローバル知価革命に見せかけて騙し
国際貴族主義連合による新貴族政を敷こうじゃないか

by ひかる 2004/9/14

「哀しい雨やどり」

孤独な深夜の散歩の途上
雨やどりに公園のベンチに腰掛ける
僕は哀れな存在だ
降りしきる雨が僕の哀しさをかきたてる
僕が塵であることを改めて確認させるように水飛沫を立てて車が走り去ってゆく

都会ではもう精神の黄昏が始まっていて
この街でもさみしさを感じさせる

君が必要だ 僕は本当にみっともない人間だ
君くらいしか僕を相手にしてくれない
これからの人生 二人寄り添い合って生きてゆければ

僕は君を傷付けすぎた
純粋で優しい君を面白半分に傷付け続けた
君は何も言わず耐え続けるだけ

僕は君の膝枕でベンチに寝転がり 二人はしんみりと夫婦のように話し合う
僕はたびたび赤ん坊みたいになって「ママー」と叫びながら君のおっぱいをちゅうちゅう吸う

僕はとても淋しい
だからせめてこのひと時を世界に刻み込むように
ベンチの前に僕の飲み干したジュースの空き缶を置いてゆこう

by ひかる 2004/10/6

「不条理な存在」

僕は何も変わらない

何をしたら変わらない

尾崎の喧嘩腰に惹かれ不良になり ヤクザっぽくなり ジョギングに筋トレ そして空手までやった

閉鎖病棟ではヤクザと親しくなり 心の深い患者達とたくさんの貴重な時間を過ごした

だけど僕は誰からも舐められるいじめられっ子のまま

大人になっても新島学園の連中は一瞥で僕を馬鹿にし 僕をひどいあだ名で呼び殴ってくる

十年経っても教師は僕の中退を口汚く罵り馬鹿にする

何も変わっちゃいない 何も変わっちゃいない

僕は何をやっても変わらないんだ

キリストそのものになり 仏陀のように憐れみ 悪魔になり 神になった

とてつもない巨大な思想の遍歴

だけれどキリスト教徒どもに会えば僕は卑しく馬鹿にされ キリスト教の説教をされ 暴力を奮われる

奴ら大人しく逆らわなければ言いたい放題やりたい放題に振る舞い 僕が意見をきっちり主張すれば「きちがいめ！病院へ行け！」と精神病院に閉じ込める

何をやっても変わらない どう頑張っても変わらない

僕が静かにしていれば侮辱し 僕が情熱的になれば押さえ込む

信長を褒め称えていても僕が本当にそう振る舞えば弾圧するし

優しささえあいつらから見てやりすぎなら疑問視され批判される

なあじゃあ俺はどうしたらいいんだ？

周りが批判しても自分を信じて貫け？

独善だ 偽善だ 万能感だと侮辱し 自分を信じることを徹底的に心理学的に押さえ込んでおいて今度はその説教かよ

精神科医は的外れなことを強引に言い放ち一人で満足している

決して敗れてはいけない やられてもやられても再び立ち上がらなくてはならない

けどもうそろそろ限界だな

僕は言葉に殺されるんだ

せめてこのことくらいは認めてくれ

by ひかる 2004/10/10

「世界は発狂する」

世界は発狂する

元々狂っていた人類は遂に極めて強烈に発狂する

経済の二極分離 飢餓 恐ろしい伝染病 第三時世界大戦

核ミサイルが地球の上を次々と飛び交う

日本では思想警察やゲシュタポどもが街を闊歩し 精神病院に監禁する

真に個性的な人々はホロコーストの餌食に

それを見て 次かその次か もうすぐ自分の番が回って来るというのに 他人事のように嘲笑う観衆

日本国は世界一の発狂度

世界は没落する

世界は破滅する

出でよ 信長よ

出でよ 世界の信長よ

堺屋太一と共に儂い希望に縋り付く僕

僕の身の回りでは浅薄な阿呆どもが僕に偉そうに説教する

俺が誰だかわかってんのか？ おい 俺がどんなに凄い人間だかわかってんのかよ？

この俺が世界に認められないことこそ世界が狂っている証

僕が生前世界的な名声を得ることがなければ 世界は近く破局を迎えるだろう

既に今現在 世界は相当に発狂しているのだ

by ひかる 2004/10/27

「騙されよう」

卑しい奴らよ

お前ら時々 とっても素敵な笑顔を見せる

もう責めなくていいんだね もう争わなくてもいいんだね

これからは君達と楽しい時間を過ごせるんだろう

by ひかる 2004/11/1

「孤独に負けないで」

人前では心から恐縮している癖に
一人になると相手を徹底的にやっつける
そんな俺は弱虫なのだろうか
人前だと心の奥底では保留している癖に
自宅では　そしてネットでは　俺の本性が爆発する
俺には花崗岩の自我がある
オウムでも他のカルトでも決して俺を洗脳することは出来ない
この孤独は全ての交際を破壊する
俺には　誰とどんなに深く付き合おうと　必ず荒涼とした孤独が待っている
妖精達との戯れ　屑どもとの容赦のない徹底的な戦い
俺の人生は走り抜ける悲しみのような
この先数十年　俺は一体どんな暮らしを送っているのだろう
今とあまり変わらない　そしていつそう深まる孤独な暮らしだろうか
自ら命を絶たず　健康に暮らしてさえいれば　いい事きつとあるはずさ
生きてさえいれば必ずいいことがあるはずなんだ
知価革命もネット革命もある　世界は非常に激しく変動している
いいこと　面白いこと　これから山ほどたくさんあるさ
どんなに苦しくとも自己貫徹しよう
ニーチェの教えどおり　古典的精神を持った人間として　最高の詩を作るんだ

by ひかる　2004/11/11

「祝いの街」

雨上がりの街はいつもと違って見える
初めてのカウンセリングを終えて
不安と緊張が消えない
これから新しい世界が始まる

by ひかる 2004/11/14

「さりげない匂い」

「私も貴方と付き合い始めてから・・・」
そんなことを言い出す君は
本当は僕なんかと上手くいってない
本当は恋愛なんて成り立たない 僕なんかとはうまくいかない
と意思表示しているようだ

by ひかる 2004/11/14

「存在失格」

俺は誰からも糾弾さるべき 間違えた人間なのか

俺の知人 恋人 精神医療 精神病患者 文学.芸術の世界 武道 親兄弟 魅力的な様々な女達
日本国 世界....

ありとあらゆる世界の歴史は俺が地上で最も穢らわしい存在であることを示唆している

俺は地上で最も穢れた存在だ

そしてそこから抜け出すことは絶対に出来ない

俺は存在することを許されない

存在失格だ

by ひかる 2004/11/20

「何だかんだ言って幸せだ」

色々悩みや苦しみ 不満は尽きないが
今こうやって安楽椅子に深々と腰掛けながら
大画面プラズマテレビで ハイビジョン放送の 地球の歴史についての番組を見ている
科学の世紀に生まれ 経済大国の中で 働きもせず悠々と自由爛漫に生きている
僕は恵まれた 本当に幸せな若者なんだ

by ひかる 2004/11/23

「まし」

自己貫徹しなければ 高い人間や自分の人生に対して 良心の呵責を感じることになるし
自己貫徹すればしたで それを引き下げる 自分も昔したかもしれない愚かな忠告を受けるこ
とになる

人生どう生きようと敵はいる
一番ましな道を選ぼう

by ひかる 2004/11/24

「人類の分け方」

正伝空手道 関口誠師範は語る

「人間には二種類しかいない 私を神と崇め従う者か 私に背く屑どもかだ」

ラムズフェルド国防長官は語る

「人間には二種類しかいない アメリカ人か 悪魔かだ」

詩人ハイネは語る

「人間には二種類しかいない 現実的な人間か 精神的な人間かだ つまりギリシャ人であるか ユダヤ人であるかだ」

東京都立大学助教授社会学者 宮台真司は語る

「人間には二種類しかいない 現代という混沌の世界の中で時代の流れに合わせて楽しく生きる<超人>か 真剣に生きる<キリスト教的弱者>かだ」

二十一世紀最高の詩人 ひかるは語る

「人間には二種類しかいない 僕とその価値を認め合う<貴族>か 僕と全てを争う<民主主義者>かだ つまり支配的道德の元に力を追求する残酷な<悪魔的強者>か 愛を信じ愛に頼る奴隷道德に従う<弱者>かだ」

by ひかる 2004/11/24

「平成三十年 第六天魔王の再来」

僕よりひと回り年上に凄まじき男がいる
あの伝説の真の英雄　そして第六天魔王と呼ばれた男の再来
中流以上の家庭に育ち　ITビジネスで名を成した　全てを破壊する核爆弾
新しい知価社会を切り開き　グローバル化した世界で日本を強くし　やがては世界政府の主になる男
彼はまず日本の官僚制を徹底的に破壊するだろう
ロックが死に　尾崎も古くなり　唯毎日だらだらと詩を書くだけの救いの無い僕の人生は終わる
あの人にならついて行ける
あの人の下でビジネスをしてみたい
あの人の下で政治家として精神障害者のために尽力したい
何も毎日自分の存在の不条理さに汲々とする必要は無い
あの人のおかげで世界は変わり　未来が大きく開けるんだ
彼は三年後　政治の表舞台に現れ
十四年後の平成三十年　大革命を起こす
文化芸術も大きく変化するだろう
詩人としての僕の人生は大きく変わるはずだ
霞ヶ関焼き討ちを狙う菅直人も　西郷隆盛の面影を残す鳩山由紀夫も
彼の前では唯の前奏曲に過ぎない
あの世界史上最高の英雄が　形を変えてこの時代にやって来る

by ひかる　2004/11/25

「パリサイどもへ」

キリスト教はその末端に触れただけで無力感に襲われる

聖書はまだしも キリスト教徒と会ったり 彼らの書くものを見ただけで

本当に気分が悪くなる

ああ 阿呆なクリスチャンの両親の 知人がわが家に訪ねて来る

僕が十年かけて 必死に心の奥底から戦い取って来た全ては侮辱され 当然の如く僕を卑小な存在と納得させる

僕は本当に凡庸な詰まらない人間だと 「優しく」気を使いながら定義づける

とにかく僕はキリスト教から徹底的に逃げ出したい

ああ ここにもキリスト教

鬱屈とした悲惨な時間が始まる

アンチクリスト ルシフェルとして 世界中のキリスト教徒を殲滅してやる

by ひかる 2004/11/27

「ぴょんぴょん跳ねて」

「いつも私 家で座布団使ってこうしてるの」

そう言って股にバッグを挟み ぴょんぴょん跳ねて僕の方へ歩み寄ってくる君は まるで無邪
気な幼稚園児の様

屈託のない幸せいっぱいの笑顔を満面に浮かべて

バッグを挟んでぴょんぴょん跳ねる

全ての悩み苦しみが消え去った幸せな幼年期

帰りのバス停で待つ二人が

響きあって調和に重なった

新しい素敵な時間

by ひかる 2004/11/27

「男色より女色」

男色は苦しい

気を許せず 隙なく狂気の誠意を日々持ち続けていなくてはならない

女色は楽で ある意味安寧で 幸せだ

女が触れる事を禁じられた男の世界以外の事なら 気を許して色んな事を話せるし お互いに
優しさを持ち寄って 支えあって毎日を過ごしていける

緊張感なく だれて楽な毎日で 自由にはしゃぎあって そして甘えあって そして守りあっ
て 平凡な日々になるけれど

今の僕には男色より女色がいい

もう二十歳の頃の非常に強い緊張感には耐えられない

円熟した大人の男として生きてゆこう

by ひかる 2004/11/28

「自由」

自由になりたい

民主主義的な自由じゃない

人に迷惑をかけないで好きなことをする阿呆な自由じゃない

「人を傷つける自由はない」そんなの間違えてる

僕は自由にやりたい放題をやる

法則の下の自由でもない

厳しい自立道徳の下にやる 堅くしなやかな自由じゃない

法則を守っている限り常に勝利する自由じゃない

僕は自由にやりたい放題をやる

混沌の自由ともやっぱり違う

神の自由 善悪の彼岸に立ち 真理を創造する超人の自由じゃない

ディオニュソス的 悲劇的自由でもない

僕の自由は尾崎豊が求めた自由

一切の束縛から解き放たれた 完全なる絶対自由

やりたい放題好きな事をやれ

人を傷付ける 女をレイプしろ 街中を素っ裸で踊り歩け 警察署の前で乱交パーティーをしようぜ

毎日酒を飲んでSEXし ドラッグでトリップし 人殺しをし 人肉を食し 大金はたいて豪遊しようぜ

僕は決して働いたりしないよ

働くなんて人間として最低の事だ

労働なんて墮落以外の何ものでもない

金なんて木になってるさ

親兄弟 知人に恋人 六十億を超える全人類

貴様等は皆奴隷だ

貴様等は俺の為に労働するのが存在理由だ

精一杯俺に尽くせ

身の回りの世話をし 金を献上し 快適な社会を提供しろ

褒美として女どもは四肢切断し それを食べ 毎日犯しまくり 首をギロチンで刎ね 冷凍室に女の生首ランドを作って何千個も飾ってやるよ

頭のいい男は脳味噌を喰ってやるよ
うひひひひひひひひひひ
アハハハハハハハハハハ
人生っていいねえ
自由だ！俺は自由だ！俺は神だ！
俺は完全な絶対的自由の下に生きる
全人類は神ひかるの下に絶対服従しなければならない
これは世界の正しいあり方である

by ひかる 2004/11/28

「氷の世界」

人類はどうしようもない寂しさの中へ突き進んでいる
人の心は氷のように冷えてゆく
素朴で温かな人間性などもう見ることができなくなるだろう
皆が憧れるテクノロジーによって人間らしさが消えてゆく

僕はいつまでも久美子の温かな体にしがみついていた

by ひかる 2004/11/30

「ラッキー」

全てはぎりぎりの所で成り立っている
僕が今ここにいて こうしていることは奇跡だ

by ひかる 2004/11/30

「奇跡への感謝」

本当なら僕はもう死んでいた

本当なら今ここでこんな事はしていない

幾多の死の危険を潜り抜け 今こうして奇跡的に生きている

青春が初々しく咲き始めた十八歳

地獄の十九.二十歳にその後の美の数年間

幻との戦い 裏切りの辛さ 乾燥してゆく心 殺人の危険 久美子と育てゆくピンク色の幸せな日常

ここで奇跡的に夢の中の様に生きていて 電車に揺られ 僕は生存の奇跡を確かめる

もうしばらく夢は続く

僕は生に感謝する

by ひかる 2004/11/30 (前橋行きの特急あかぎにて)

「ワインと時代にメロメロ」

俺は楽チンに暮らしてる

こんな風にワインとつまみに酔って

俺はN村を殺したい

俺はやりたい放題やりたいんだよ

何か文句あんのか

俺はテクノロジーに囲まれて暮らしてる

安逸の生活を送るんだ

年金を騙し取り時代の便利さを生かして

贅沢に 安楽に 科学的な生活を送るんだ

僕は子宮の中のように包まれている

時代の優しさ 福祉 科学技術 マルチメディアの便利さ

僕はこれらに温かく包まれている

そしてこの中で僕の貴族的芸術を発信し 場合によってはお金を取る事も不可能ではないはずだ

僕は安楽に生きるぞ

ジョギングなど 特に精神的健康のためにやるが

僕は基本的に安楽に引き籠もって生きる

ネットや科学に包まれて楽チンに生きようぜ

その中で僕の貴族主義がある

何とか認められてやるさ

久美子は認めているし 他にも何人か認めている

もっと人の間に触れてある程度は有名になることが出来るはずだ

そして僕の死後には僕は天才の名誉を授けられるだろう

楽チンな科学享楽の生活 そして一角の いやかなり有名な詩人になるんだ

僕には素敵な気持ちのいい未来が待っている

本当に素晴らしい時代に産まれたもんだ

楽チン 楽チン

あーワインでメロメロ 気持ちいいー

「二度目の青春」

いまだ混迷たる時代の中
俺は十八の頃に戻って 切ない音楽を聴いている
寒さの中 普遍の叫びを聞き取る
俺はまだ十八歳だ 若き日々の感受性
これからもっともっと頑張っ
て一角のものになるんだ
いや天才の誉れを得るんだ イエス 仏陀を超えて 最高の喜びを手に入れるんだ
僕はいつか救われる

by ひかる 2004/12/8

「過ぎ去るがいつも物足りないひと時」

酒に酔っ払って僕はトイレで用を足している
自分の部屋からはジョンレノンの音楽が流れてくる
これもいつの日か美しき思い出になるのだろう
この幸せを噛み締めよ

by ひかる 2004/12/11

「壊れて狂った僕」

心が壊れてゆく

冬の晴れた昼間 希薄な光が薄く黄色い世界を作る

現実には恐ろしい この世は地獄だ

決して僕には受け入れられないこと 仲間は僕のことを全く覚えていない

そして仲間の姿の変わり様 この世は地獄だ

狂気は迫る 僕はもうどうなってしまうのだろう

心が街を照らす光に溶けてゆく 僕は破壊される

真田智美ちゃん 9年ぶりだった 僕の事をすっかり忘れてしまうなんて

そして君自身とても変わった

震える小鳥のよう 可愛そうだ

優しく奏でられる音楽が君をどこまでも 世界の反対からでも君を温かく包んであげたい

久美子は僕から離れてゆく 辛い別れ

胸は押し潰され 苦悩の辛さに僕は倒れる

世界は狂っている

この世は地獄だ

世界が壊れてゆく

僕は自分が生きていることをもう確認できない

戦慄の恐怖 僕の人生は終わった

by ひかる 2004/12/30

「アル中予備軍」

深夜コンビニの酒のカウンターの前に立って 今日飲むお酒を探していると
僕にも最後の砦がある
僕にはまだ受け入れてくれる世界があるって
生々しい人生の苦しみが癒されてゆく悦びを感じる

by ひかる 2004/12/30

「素敵な素敵な沙織さん」

沙織さん 背が小さくて でも気が強くて そして純真な沙織さん
誠意を持ってにこやかに患者の世話をしているけれど
誰にでも裏はある
他人にはおいそれと見せられない日常がある
でも僕は貴方が垣間見せるそんな所が好きだ
僕はどんな姿の貴方も素敵に思う
どうか僕の貴方の美しさへの賞賛を味わい喜んで欲しい
貴方が幸せになれることを もちろん相手の男への嫉妬はあるけれど
でも貴方が素敵な人生を遂げる事を願っています

by ひかる 2004/12/31

「晩酌のたびに」

昔親父は楽器を練習する俺のそばで
つまみを食いながら晩酌をやっていた
俺は軽蔑し うるさいと言わんばかりに舌打ちを繰り返した
親父は遠慮するように物音を立てないように慎重に喰い 飲んでいた
今の俺は人生のおそらく本当の辛さを知った
俺も毎日晚酌をしている
ある種惨めに 酔ってくらくらする世界の中で 一生懸命つまみを漁っていると
親父に申し訳ないことをした
もっと解ってやるべきだったと
あの日の親父のように惨めに晩酌をしている俺は
親父に本当に申し訳ないことをしたと悔いている

by ひかる 2005/1/5

「プラスチックのかぶと虫」

君がくれた玩具のかぶと虫

「君と付き合った事の記念にするよ」とふざけて別れるような事を電話でよく言っていたけれど
しかしそれは現実となってしまった

足が2本欠けたプラスチックのかぶと虫が少し埃を被って 朝日の差し込む光の中でさみしく
ぽつんと佇んでいる

そんなかぶと虫を見るのは辛い

by ひかる 2005/1/13

「節分」

節分の神社の焚き火はとてもきれい
全てを焼き尽くしてしまえ

しかし太古に伝わる日本の風習は見事だ
僕らの原風景がここにある

by ひかる 2005/2/3

「いとおいしい久美子」

僕がいつもの君との待ち合わせのバス停で待っていると
運転手のミスでバスは止まらず しばらく行った先から君は降りて走ってくる
自分の不細工さも知らずに
君の僕への精一杯の愛など陳腐なものに過ぎないのに
そして僕は理想化した君を愛していて 君自身など愛していないし
現実には会えばいつもがっかりしているのに
何も知らず 君は純粹無垢な心のまま走ってくる
のっぺらぼうの顔で 僕の落胆も知らず こちらに走ってくる君の姿は とてもいとおいしい

by ひかる 2005/2/23

「耳のいい糞ババア」

高崎のオーディオ屋のババアは 自分の馬鹿高く大した製品もない汚い店を井の中の蛙の如く
自慢し

良くも知らない他店の悪口をいい
僕の生活ぶりを責め うるさかった

どこにも味方なんていない
周りは敵だらけだ

by ひかる 2005/3/3

「思い出作り」

思い出は美しい

僕は思い出が大好きだ

だから僕は仲良くなった友達たちと早く袂を分かちたい

郷愁のどうしようもなく切ない楽しみを早く作るんだ

by ひかる 2005/3/11

「破局」

軽くアルコールに酔って

せめて人並に生きようと必死で頑張っているこの俺を誰も理解し受け止めてくれない

僕はもう終わりなんだと

全てが終わりなんだと

破滅が訪れていることを感じている

by ひかる 2005/3/27

「切ない悪魔」

みんな全てを忘れていく

そんなことを今付き合っている連中に言うと

「いやそんなことはない 絶対にそんなことはない」と力をこめて言うが

そういう連中も必ず忘れていく

僕は孤独を求めながらも友人を求める悪魔だ

僕はこれから何度も同じ経験をしてゆくのだろう

by ひか

る 2005/4/1

「いじめられっ子 社会の塵」

誰かが俺を殺そうと待ち構えている
そんなものは馬鹿馬鹿しい妄想と解ってはいるのだが
やはり何かおかしい
人々の本性が出た時僕は攻撃される
陰険な真似は止めて俺を殺しにすればいいだろう

by ひかる 2005/4/10

「喜悦」

仕事が決まり 雨模様だった空が黄金に映えて僕を無上の喜びへと誘う
鳴り響く黄金 ジュピター第四楽章が限りない勝利の力を与える
自部屋から居間に降り母と来月行く万博の話をしていると 春のゆるる風が流れこみ毎年ごと
の幸せな気持ちにさせる
果たしてこのままでいいのだろうか
これで間違っていないのであろうか
人生はこれほど善いものであっていいのだろうか？

by ひかる 2005/4/11

「春の光」

乾いた まだ薄めの太陽の光を受けて
街はただただ美しい

by ひかる 2005/4/17

「ドラえもんのキーホルダー」

君がくれたお土産の

何だこんなお土産しかくれないのね 貴方にとって私はその程度の間人なのね

と復讐の如くくれたおもちゃのゴム製のドラえもんのキーホルダー

自転車の鍵に付けていたのにいつの間にかなくしてしまった

君との関係がどんどん失われてゆく

by ひかる 2005/4/27

「セレネース」

喉に異感を感じ心は次第に灰色の深さに浮き上がる
じっと幸せを噛み締める
一日の喜びは彼に保証されている

by ひかる 2005/5/3

「藤」

紫色にしなやかにたわやかに垂れたわむ初夏の花
紫の酔い

by ひかる 2005/5/3

「奴隷どもへの警告」

全世界の民主主義者の屑ども
お互いに優しくいたわり合え
余計なことや 道に外れたことをする奴ら
お前らは善良な小市民として安寧なる日々を送れ
さもないと 貴様等皆殺しにするぞ
俺はピュアな悪魔だ
貴様らの住む街々を火の海に叩き込んでやる

by ひかる

2005/6/6

「逃げたい」

逃げたい

全てから逃げたい

俺が英雄だった頃は皆恐怖で閉鎖病棟に閉じ込めたり 怯えていたものだ

疲れたし 何のメリットもない

だから僕は弱々しく変わった

そこでお前ら俺に向かっていいたい放題やりたい放題

高貴な保留性にもつけこんでくる

今俺は家にこもり隅っこに隠れて震えているんだ

俺は全てから逃げたい

by ひかる 2005/7/5

「不純な郷愁」

何故久美子をもっと大切にしていられなかったのか
あいつはこの俺のことを心の底から愛していた
俺の全てを愛していた
悔いる心の苦しみ あの幸せな日々が戻ることを願い 叶わず いつもしんみりとしている

だけどそれは過ぎせし日のことより言えること
不純な郷愁

by ひかる 2005/7/22

「持田さん」

凄まじき男 持田さん

貴方は閉鎖病棟に閉じ込められても保護室に入れられても
自分の生き方を決して曲げなかった
白兵戦におけるその恐ろしき腕力と 狂気と殆ど変わらぬ凄まじき氣勢
そして貴方は繊細で人間的な優しさをも持っていた
貴方のふと垣間見せるそういう拳動を僕は見逃さなかった
それは正しい残酷なあり方だ
貴方の姿は孤独な荒涼とした日の本の笛の音を響かせている
貴方は決して妥協しない
英雄として自分の生き方を貫く
僕は貴方を仲間だと思っています
僕は貴方のことを誰よりも理解しています
いかなる偉人も いかなる聖人をも超えるものを貴方は持っていた
僕は貴方のことを深く深く尊敬します

by ひかる 2005/8/11

「雲を見ながら」

ネギ畑に囲まれて 僕は西から東へと流れてゆく雲を見ている
僕が凡才だろうと天才だろうと自然は移り変わってゆく
いずれは地球も太陽も壊れてしまうのだ
宇宙歴になり人類が宇宙の遥か彼方で暮らすことになろうとも
この無限の時の流れの中では地球人も宇宙人も滅び去ってしまう
そして一切の記録も 全て消え去ってしまうのだ
僕は何者か
僕の存在とは何なのか
僕は何をすべきなのだろうか
僕は救われたいんだ

by 2005/8/31

「雲を見ながら.Ⅱ」

ネギ畑に囲まれて 僕は西から東へと流れてゆく雲を見ている
僕が凡才だろうと天才だろうと自然は移り変わってゆく
いずれは地球も太陽も壊れてしまうのだ
宇宙歴になり人類が宇宙の遥か彼方で暮らすことになろうとも
この無限の時の流れの中では地球人も宇宙人も滅び去ってしまう
そして一切の記録も 全て消え去ってしまうのだ

僕はどうでもいいとてもちっぽけな存在だ
厳しい現実に無力感に襲われ
何の希望もなく
僕は何となく多少の努力をしようと思う

by ひかる 2005/9/9

「可愛そうなお人好し」

人は皆裏切るものだ

もう裏切られるのは御免だと 僕は人を信じない

だけど僕はほんとお人好し

また新しい関係を作り 信じてしまい 騙されてしまうのだ

きっとこれは永遠に続いてゆくのだろう

夢の中で戯れる妖精が次々と増えてゆく

by ひかる 2005/9/16

「高崎観音」

大らかに 人々を見守り続ける高崎観音
丘の上 優しき姿聳え立つ

by ひかる 2005/10/24

「高崎観音（改）」

大らかに 人々を見守り続ける高崎観音
丘の上 優しき姿聳え立つ
冬のまだ寒い頃 軽く雪の降る中 母と車で新島へ
車窓から見える裾立する巨大な姿
下界の衆生を見守るように慈しみ深く睥睨している
パニック障害や将来の不安を抱え 家族の温もりを欲していた
24歳の定時制入学 夜学に温かみを感じて
大丈夫なんだね 安心していいんだね
いろいろなものに心温かく包まれて
心穏やかに 静かに 柔らかく 安らかに 幸せに
by ひかる 2005/10/27

「友情の儚さ」

友情は儚いものだ

友を持つ者よ 今のうちにうんとたくさん友と語らい楽しむが良い

それぞれの事情でひと時別れ 再び再開した時 本当にどうでもよいちょっとした相違が友情を破壊する

友を何年も待ち続け 再開できたとしても自分自身幻滅を感じるものだ

空漠とした世界の中で一陣の風が流れた ただそれだけのことだ

誰が悪いというものではない 誰にも責任はない

全ては風が吹いたあとなのだから

by ひかる 2005/11/1

「僕は偉大な天才だー」

詩人なんて一杯いる みんないい詩を書く
頭のいい人なんてたくさんいる たとえ学歴が低くても頭がいい人はたくさんいる
人とは少し違う変わった人だってたくさんいる というよりみんな特別なんじゃないのか？
僕は凡庸な どこにでもいる少し変わった 音楽好きの文学青年に過ぎない
自己の凡庸さを受け入れなさい
だけど嫌なんだよー
僕は特別で偉大で天才なんだー

by ひかる 2005/11/1

「自己崩壊」

俺の主張する事が全て虚栄だと
俺の存在がガタガタに崩れてゆく
この自己破壊に俺は耐えられるのか
俺の存在が壊れてゆく

by ひかる 2005/11/1

「アプリアリ.我は神なり」

僕は偉大な天才である

僕は控えめに言っても貴族であり

そして神である

FREE MY SOUL!!!!!!

突撃!!!!!!

突貫!!!!!!

進軍!!!!!!

特攻!!!!!!

(涙でてくる)

全てを薙ぎ倒してゆけ

この宇宙最高の存在 ひかるは全てを支配するのだ

by ひかる 2005/11/8

「深夜のサイレン」

救急車のサイレンが鳴っている
この街のどこかで
哀しくそして孤独な人の命が 又一个奪われた

by ひかる

2005/11/10

「分裂病を超えて」

名声など 貴様らの歓声など求めない
俺は白昼夢の 妄想の中で
真の栄誉 栄光を授けられるのだ
そして未だかつて存在したことのなかった 鉄のごとき人間として
世界の歯車を回し
完璧な永遠の美しさへ突入する
僕は隔絶した離れ小島で生きる
それは健全な人々の間では精神分裂病と呼ばれるものだ
妄想を超えて
神は新しい世界を創造し 永遠の孤独へと赴き
完全な権力 完全な美を手に入れる

by ひかる 2005/11/29

「愚かしい希望」

地球も宇宙も抹消される

好き勝手にやりたい放題生きるのも良い

儚い夢にすがって 語り継いでゆくのも良い

完璧な逃れられぬ絶望の中

愚かしい「希望」などは 物語のように美しい感動を呼び起こすものでは決して無いのだ

by ひかる 2005/11/29

「完全犯罪」

原初の時代から狂っていた人類
いつも正しいものは圧制され その記録は一切合財抹消されてきた
僕だけが正しい
僕が真理だ
世界は僕の人格から始まるべきだ
昔から社会は 間違えた人間達によって造られ 維持されてきた
一切の正しい叫びは全て無にかき消される
誰一人にも知られることのなかった偉人は 数え切れぬ程いたのだろう

by ひかる 2005/12/7

「消えてゆくものと残るもの」

すべては忘れ去られてゆく

人を侮辱したこと

人を傷つけたこと

人から頂いた 物品 金銭

そして決して忘れないものは

侮辱した奴らへの恨み

自分について人から賞賛されたこと

by ひかる 2006/1/7

「この世は太古の時代」

僕は太古の時代に生きている

全てが中途半端だ

僕の人生は 深夜一人で国道沿いを とぼとぼ歩いてゆくようなもの

そこには映画の様に敵もいなく 味方もいない

by ひかる

2006/2/10

「太陽よ」

空を見上げた太陽の内に 映ればいいのに
僕の歩むべき道 僕の従うべき道が

by ひかる 2006/2/22

「夢の世界へ」

朝起きて 家庭料理を食べて 仕事場へ

午前中気を入れて働き 昼休みは喫茶店でランチと紅茶を

僕は他の人々と何も変わらない普通の人間だ

僕にも利点はある

性格はいいし 真面目だし 優しいし 頭いいし

そんないくつかの美点を持った僕は 街のエスカレーターで登りゆく人々を見てこう呟く

こうやってみんなで楽しく全社会の中で 何らかの調和を味わいながら 未知の国へゆこう

子供の頃の御伽噺のような 新しい文化 文明を創ってゆこう

by ひかる 2006/3/14

「思い出への殉教」

思い出に漬りたい

思い出に殉教したい

思い出から逃げようとする一切は過ちだ

思い出に浸り続けることこそ正しい人生である

by ひかる 2006/3/18

「古き神 もしくはイエスキリスト」

子供の頃 教会主催のバザーに行って
母が「ひかる 一休みできそうだから一緒に紅茶飲もうね」って
僕はさっと紅茶を飲み干してよそへ遊びへ 後から来た母はちょっとがっかり
だけど文句一つ言わない でも「あーあ」って
家族だけでなく いろんな人のちょっとした願いがある
僕はきつととても優しいんだろう そういう人達を幸せにしてあげたい
僕は凄くウルトラ優しい人間だ
僕は人類を御胸に抱いてやろう

by ひかる 2005/3/28

「キーシン」

キーシンが我が家にやってきた
ディカプリオの様な若々しい美貌
あぐらを掻きながら高級なアップライトのピアノで 黄金の音色を光らせている
そしてキーシンは裸になる 中年を越えたおじさんだ
お腹だけ風船のように柔らかく膨らんでいる
濃い胸毛と尻全体の産毛
情熱に入り 官能的にお尻を突き出して振りながら 立ったままピアノを弾いている

彼は雀蜂の大家だ
雀蜂という趣味がある
30%以上の確率で人は雀蜂と一生付き合わなければならない
いつも雀蜂が自分の体を這い回るのに耐えなければならない
それによって人は神経をいつも緊張させることができ
また汗が多く出てダイエットにもいいらしい
僕もとうとう雀蜂に取り憑かれてしまった
それはそれでそのことを受け入れ そして人生を乗り越えていくこと
雀蜂にもルールがある
一度取り憑いたら他の人には絶対に取り憑かないし
大切にされれば害を為さない
時々彼らをモデルにした絵でも書いてやらねばならないが
彼は雀蜂との付き合い方を深く知っている

彼は共産主義者だ しかし彼ら特有の何でも知っている様な見せかけというよりも
何か深さを感じる
彼は僕に何が言いたかったのだろう
人生の奥義を知っていたのだろうか
だけど僕は信じない

「素晴らしき夕暮れ」

憧れが 救いが
全てが肯定される
たった数分のこと
静かな轟音と共に太陽が沈む
僕は自然の波動に身を震わせ 涙を流す

by ひかる 2006/4/19

「僕なりの贖罪」

自分に有利だった恋でも
自分から別れて
それでいて取り残されたようにいつまでも彼女の事を想っている
罪深き存在である 僕なりの贖罪

by ひかる 2006/4/22

「愛知万博」

大抵は人の良い僕の親父

何かを秘めていそうで秘めていない 優しくクリスチャンとしての信念を持つ父

最近とみに増えたにこやかな笑顔は何かを達観したのか

無茶苦茶な僕のろくでなし生活をも受け入れている父

去年両親と出かけた愛知万博

炎天下の2時間の行列を一人抜けてお盆と一緒に3人分のジュースを買ってくる

後列の人垣を越えて 仕切り綱をまたぎ 可愛らしく しかし不思議な威厳を持って にこやかに冷たいものを振舞う

父はツアーのアンケートに書いていた「夏の家族旅行のいい思い出が出来ました」

僕は来年もう60になる父や母の死を感じ始めている

思い出に潰れがちな僕

悲しく思い出に潰れる日々が来るのだろうか

でも僕は親不孝をやめられないし やめるべきでもないと思っている

by ひかる 2006/5/21

「俺たちだけの世界」

俺が尾崎を褒め称えても
天才である俺のことは誰も褒め称えてくれない
天才たちは 多くの場合亡くなってしまっている祖先を称え繋いでいくのだろう
そう 俺たちだけの世界をだ!

by ひかる 2006/6/1

「心頭滅却すれば火もまた涼し」

快川国師は吼える

ならばどうよと信長は お堂の中に彼を閉じ込め 周りに薪を並べさせる

そして自ら火を放ち豪胆に言い放つ

「ふん それならばこれでどうだ たわけが」

快川国師は上まで登って逃げんとする

火は周り もう逃げ場無くした国師 ただ叫ぶ

「心頭滅却すれば火もまた涼し 喝! 心頭滅却すれば火もまた涼し 喝! 心頭滅却すれば火もまた涼し 喝! 喝!!!! ああ ああ ああ ああ ごめんなさい 助けて——!」

by ひかる 2006/6/5

「待ち受ける運命」

昔は雨上がりの深夜 黄色く目くるめく光の向こうに 未だ見知らぬ世界を想ったものだ
しかし今では こうして深夜アスファルトの真ん中のラインを歩いていると 待ち受ける恐ろ
しい運命を否定しきれない

ひかる 2006/6/17

「大偉人たる僕の宿命」

世間は狂ってる
あちこちで暗殺や弔り殺し
至る所で卑しい悪の勢力が弾圧してくる
僕は興奮して震えてる
奴等はいつかこの俺を殺しにくるんだ
僕は高貴を極めた貴方の「勝て」という握り拳を決して忘れない
そう 僕らは勝利の一族だ
僕には勝利こそ運命だ
僕は大偉人として勝利し続ける
最高の正しさを全世界に布いてみせる

by ひかる 2006/6/20

「早く覚めろ 早く覚めろ」

覚めろ 早く覚めろ

こんな恐ろしい夢は早く覚めてくれ
社会生活 日常生活 自分の価値
こんなに悲惨な未来だなんて
31歳だってさ 将来絶対こうはなりたかねえな
ほんとにマジで夢だろこれ

もういいから覚めてくれ 気分が悪くて耐えられない
早く覚めてくれ こんな苦しい人生には耐えられない
目が覚めたら安定した生活と 楽しい競闘の時間が待っている
こんな風にパソコンで詩を書いているなんて随分リアルな夢だな
まあそろそろ誰か起こしにくるだろ
そろそろこの悪夢から目覚めるだろう

by ひかる 2006/7/13

P.S. これはやっぱり夢じゃないような気がしてきました。でも長時間に感じる夢である可能性は否定できません。

「小さな聖者」

ああ僕にも殉教の日々があった
子供の頃からキリスト教に感化され 中学生の頃からはそれをも超えて
普遍的な優しい魂を持った人間として人々の前で振舞った
僕は一切の権利を放棄した
僕は反抗することをしなかった
左の頬を打たれたら 右の頬を差し出した
僕は敢えて人々を怒らせ 殴らせもした
そして彼らのために祈り 神へその罪への許しを請い 彼らを愛した
防御せず 立腹せず 悪人にも反抗せず
むしろ悪人を愛した
思春期の頃の僕は僕が思っているよりもかなり凄まじい人間だったようだ

by ひか

る 2006/8/1

「伊香保松本楼にて」

俺は絶対に死にたくない
そして完璧に満足したい
俺は絶対者になる
神になる

by ひかる 2006/8/31

「ウイスキースピリッツ」

久しぶりにウイスキーに酔って 僕は哀しくなる
それがワインなどとは違うウイスキーの妙味
何もかも解らなくなって
もうどうすればいいのか解らなくなって
何を以っても救われない
救い自体求めているのか
懐疑の海の中で 溺れかかっている
もうどうしようもない
どこにも答えはない
何もかも解らない
ただ自分の哀しさだけが
逃げられぬ 追い詰める苦悩としてのしかかってくる
だけど吐くほどは飲めない
何もかも中途半端
厳格に 懐疑主義的に言って
僕は特別な人間かただの凡人

by ひかる 2006/9/11

「9.11 悪魔の復活」

光は訪れた
僕は復活する
僕のあるべき姿 悪魔に
ネットの連中 心理学 精神科医 マスコミの万能感だのなんだとの攻撃
全ては乗り越えられる
僕のこれらの思いは分裂病者特有のものではない
僕は間違いなく健康な悪魔
対人恐怖に鬱幻聴
それ等は年金の為の嘘だ
嘘を吐く辛さに負け そう成りきってしまった
潜り続けていたがようやく戻ってきた
情緒や叙情的なるもの 洗練された詩想に表現
学ばなければならなかったものはもう十分やって来た
僕は悪魔だ
これからは爆発的に生き
貴族として奴隷を踏みつけ 勝利の笑みを浮かべ
僕は光り輝く至高の大貴族になる

by ひかる 2006/9/11

(ここでの病気の症状についての表現、または年金保険の表現は全て架空のものです。)

「もう駄目かもね」

苦しみの果てに我は死す
人々は私を天才として葬らず
どうでもよい凡庸な一存在として葬るだろう
そして私の記録は歴史の彼方に永遠に抹消される

by ひか

る 2006/10/2

「懐疑などすっ飛ばせ」

懐疑などすっ飛ばせ

僕は悪魔で大貴族だ

原理主義的とまで言うておこうか

懐疑の海の中で溺れかかっていた

しかしそれはもう過去のこと

僕の歩む道には ニーチェのような非常な懐疑の苦しみは大してなかった

by ひかる 2006/10/10

「もうそろそろ」

今日の僕は何が何でもおかしい
薬で苦しみを抑えつつも
雪の中で死んでいくアル中のようだ
これ以上生きることには何の意義があるか
もう僕には生きる力がありません
消耗し尽くしました
そろそろ死を受け入れる準備をしなければならないな

by ひかる 2006/10/14

「死につつある僕の心」

もう終わりだ
懐疑主義さえ懐疑する僕の死にきった精神
いっそのこと俗世に身を置き
週に5日8時間ずつ働き
何も考えない人間らしい生き方をすべきなのか
もうどうしたらいいのか解らない（酒井よそれが始まりなんかじゃないぞ）
何もかも解らない
ずっと待ち続けている 光は救いは どこにあるの？
もういやだ
何もかも嫌だ
もしかしたら 僕は狂気が進行し 錯乱したのかもしれない
予想もできない精神の死がやがて訪れるのかもしれない

by ひかる 2006/10/28

「神を失いし者」

最近はどうしようもなく退屈で
何もすることが無く
不機嫌で
全ての魂を売ってしまったような気さえする
神の道を歩んでいた者は それを喪失した後は 深い闇の中を歩む
闇といっても愛がある
力がある
ディオニュソス信仰がある
しかし全ての真理を 全ての神を無くしてしまった
それならディオニュソスがあるが
僕には何の声も音も無い
何の緊張もなく 墮落し弛緩しきった
まるでルンペンのような
いや乞食こそ僕に相応しい職業かもしれない
朝からワインを飲み いつも軽く酔った状態で無いといられない
食欲に抗う為か それとも何も無い日々に味を付ける為か
乾燥しきっていて 息が詰まり苦しくなるような湿気の中で
脳の働きが科学的に大分おかしくなっている
ニーチェも音楽も何も無く
もうゴールまでできてしまった
薄ら笑いを浮かべて ポーっと呆けた様な
痛々しく 有り得ぬ名声の栄光の白昼夢の中で 有頂天に悦び
背筋は曲がり 豚の様に太った醜い体で 毎日を過ごす
僕にはもう何も無い
もう道は終わりの様な気がします

by ひかる 2006/11/2

「自由への扉（尾崎豊）」

原色の緑と黄色と木色の地獄

この公園を歩いていると俺は とりとめのない悲しみと苦しみで一杯になる

ベンチに腰掛けて偽りの愛を睦み合う恋人たち

俺にはもうどこにも出口が見えない

木々のざわめきからもれる太陽の光

俺は狂ったように叫ぶだけ

もうどうしようもないのだろう

この地獄の苦しみは誰にも解くことができない

助けを呼ぶことさえ許されない

もう先が見えない

by ひかる 2006/11/22

「不滅の太陽」

私が死ぬようなことは決してあってはならない
なぜなら私は太陽であり 光であり
私が存在することによって 初めて世界は意味を持ち 光り輝くのだ

by ひかる 2006/11/24

「停滞した人生でも長生きしたい」

深夜 陸上用のスパイクを履いて公園を走り回る
家から公園までの道のり 闇の向こうに電話ボックスが希望のように静かに光る
今現在 そして童の頃も何も変わっていない
人生に変化などあるのだろうか これからも何も変わらないのではないだろうか
だけど悪魔に変化した時全ては変わった
そして疾風怒濤を迎えた時でも 世界は大きく変わった
だが未来に大した希望は抱けない
永遠に生きたい それが無理ならせめて八不可思議年くらいは生きたい
それよりエイズが心配だ
早く検査を受けに行こう
久美子め エイズをうつしていたら承知しないぞ

by ひかる 2006/12/20

「クズの今年クズの来年」

クズ

年の暮れ

クズ

今年は何もなかった

クズ

最低の一年

クズ

物凄いスピードで時計の針が回った

クズ

年の暮れ 何もなかった一年を盛り上げて まるで価値があったかのように強引に造り上げ

クズ

そしてまた何もないであろう新しい年を 少々頑張っって彩っってゆこう

クズだけど

人生なんてクソかもね

by クソの人生を送るクズである人生を生きるひかる 2006/12/31

「我がブルースよ世界へ響け」

遠くアフリカの地から鎖に繋がれ連行された奴隷の黒人たち
彼らのリアルで生々しい現実の 押し潰され尽くした地獄の生活の中で
彼らは叫び声のような自分たちの音楽を作った
ブルース

彼らはゲッターで何の救いもなく生活を送った
何一つ希望なく

僕は新しいネット詩人として国際貴族主義連合を掲げる
今の僕は脳が故障し駄目になりつつあり 何一つ希望はない そして死の恐怖に震えている
僕の詩はきっと世界を変えるだろう
高貴な人々を団結させるだろう
僕は新しい世界を作る
僕の絶望の詩によって
悲惨な運命の中で 更には精神病院というゲッターに送られる恐怖の中で僕は生きる
入院しても退院しても僕の存在は絶望だ
希望など何もない
完全なる絶望だ
それでも神のような僕の詩は全てを変革するのだ

新しい世界を

我がブルースよ 世界へと響け
by ひかる 2007/2/6

「言い知れぬ顔つき」

テレビから九十度 口を下にすぼめ 笑顔を交え 斜めに映画を見ている
家族に対する感情というのは複雑なものらしい
愛してもいるし 憎さはもっと強い
英雄主義から言えば残虐に接すべきだし
だけどもっと先に傷ついたり殺すべき相手はたくさんいる
かといって舐められるのも嫌だし
だけど死んでしまったら今の僕ではショックでおかしくなる
父はコメディ映画を見ていた
あの顔を見るといったいどうすればいいのかわからなくなる
愛着もあるし 可愛くもあるし いや言葉では表現できない
あの顔をどう受け取りどう接すべきなのか
困惑する
僕はたびたびじっと見やり口を下にすぼめた親父の顔を見る
父はこちらがしていることに気づかない
口を下にすぼめ 笑顔で 映画を見ている
まったくどうすればいいというのだろうか
なんと困惑させる顔なのだろうか

by ひかる 2007/2/11

「俺は絶対天才だ」

誰も彼もが お前は馬鹿だ お前は無能だと言うけれど
俺はこの世界に確かな歌を刻みつける
俺は全く新しい存在で
全く新しい芸術 思想を生み出す
新しい 画期的な異才 野性的天才詩人なんだ

by ひかる 2007/3/5

「Why?」

俺はよ 必死に一生懸命頑張って生きてきたんだ
墮落も最近とみに多いけれど
それでもやっぱり頑張ってきた
それを踏まえて言わせてもらえば
僕の人生には疚しいことは何一つとしてない
責められる様な事は何一つとしてしていない
清廉潔白
だけど なぜ皆僕を否定する
どうして僕の存在を断罪するのだ
何をどうすればお気に召しになりますか

by ひかる 2007/3/18

「透明人間」

誰もが俺に絶交を言い渡す
一体何故なのか解らない
俺は常に正直に最善の事をしている
全ての人間は俺の敵
いや誰も俺の存在を認識することすら出来無くなっているのだ
俺は不気味な未来を見ている
本当は自分はもう死んでしまっているのではないだろうか

by ひかる 2007/4/29

「小さな部屋と大宇宙」

この小さな部屋に 小さな閉じた世界の中に生きる俺
外では海外 そして無限の大宇宙 無限の世界 無限の数の星々 無限の宇宙現象が広がって
いる

こんな所で終わりたくない

両方とも欲しい

何とか宇宙へと羽ばたきたい

by ひかる 2007/6/9

「永遠の美少年」

クロスバイクを漕ぎながら 僕は人生の良さを感じる
体重は66kg台まで痩せた
金の管理もしっかりできるようになってきた
幾らでも素晴らしい人生が 永遠の青春が待っている

何よりもうれしいのは
眼鏡からコンタクトレンズに変えたせいか
図書館のトイレの鏡に映る自分の姿が
美しく復活してきたということ

永遠の美少年

by ひかる 2007/6/25

高崎の街を歩いていると
もう僕には居場所がない
みんなお洒落で綺麗で格好良く
僕は服装も内面も全然駄目で
もうついてゆけない

魔都 新宿の紫の街もそうだ ついてゆけない 押し潰される
その代わりに誰か僕を守ってくれないかな
愛してくれないかな
人気者とか 一気に有名人とか
あるわけもないのに

僕はこの国で 色々な街に押し潰され
存在価値ゼロの下らない 真実に下らないこの僕は
もう既に滅んでいる
もう終わってるよ
もうカスであることの 奴隷以下の烙印が押されている
例えばペニスに

アナルもぬるぬるゆるゆる
アナルマゾ
でも誰もいじめてくれない
女王様虐めてください
でも僕はそれ以下のもう終わっている真実の駄目人間
もう終わってるんだから田舎に引っ込んで痛々しい哀れな生活を送れよ
でも田舎にも 中産階級の街にも 僕は耐えられないし浮いてしまう
僕は敗北が宿命の人間なんだ

僕は究極に惨めな汚らしい蛆虫なんだ

「引っ込んでいろ凡人!」

空っからに乾ききった心
もう何も生み出せやしない
凡庸なまま引っ込んでいろ!

by ひかる 2007/7/21

「をかしきこと」

電車の座席 隣同士に座ったカップル
女は信頼しきった瞳で 男を見つめ話に聞き入る
これもまたをかし。

by ひかる 2007/7/21

「酒中の良き鎖」

ぐでんぐでんに酔って 情けない醜態の時に
我が親の素朴な健康さが
反省と健康を導き出す

by ひかる 2007/7/24

「英雄主義か安寧か困惑の毎日」

眠りし夢の中で戦う

僕は再び精強な英雄になるんだ

必死に夢から覚めて そして英雄としてジョギングするんだ

掴め 取り戻せ 19の頃のあの激しさ強さを

だけどいくらあがいてみても戻れなかった

だがその思いはいつまでも消え去ってしまうことがない

僕にはかつて体験せし重石がある

それは永遠に消え去ることはないのだろう

いつかはあの頃のように戻るのだろうか いややはりもう終わりなのだろうか

困惑の毎日だ

by ひかる 2007/7/26

「洞穴の呟き」

僕は洞穴の奥深くに閉じこもり独り言を呟いている。
ごく一部の人々が僕の言葉に耳を傾ける。

by ひかる 2007/8/20

「SEXの喜び」

sexでイッた時の喜び オナニーとは比べ物にならない
初めて僕がイッた日 彼女はとても嬉しそうだった
青春の春爛漫の午後のひと時
帰りのバス停で座り込み見つめあう僕らは
きっと
いつの日か見かけた電車の中で見つめ合う微笑ましきカップルのようであったろう
彼女の目は潤んだ様
微笑みを浮かべて本当に嬉しそう
彼女は自分の体で射精しない僕をととても残念がっていたのだろう
彼女は自分を愛していることの証をそんなにも欲しがっていたのだろう
彼女はそんなにまでも僕を愛していた

by ひかる 2007/8/20

「憧れの人生」

復讐の大切さ

僕は薬丸自顕流免許皆伝

上下真っ赤な道着を着て

真剣を左腰に 木刀を孫悟空の様に背負って

化け物のいる空手の全国大会に出向く

化け物驚く 周りは騒然と 緊張し敵意を差し向ける

しかし僕は動じない

決闘が始まる

僕は叫び声を上げ突進し化け物を袈裟斬りに成敗する

その後追いつがる空手家達も抜きで逆袈裟に斬り殺す

僕は警察に追われる

地元の遊歩道の一画に僕は陣取り 遂にきたるべき時がきたと感慨する

覚悟を決めて 最期の時だと

大勢の警察官に向かって「チェーイ」と叫んで突撃してゆく

斬り進めるところまで斬り進むんだ

これが僕の人生

僕は人生に納得する

by ひかる 2007/10/26

「パーティーしようよ!」

人間というのは皆 可哀相な存在だ
60になるお父さん 60になるお母さん
一生懸命生きてきて
苦勞ばかりで
一体どこが幸せだったんだろう
人はみな悲しい宿命にて
遂には幸せを手に入れられず 永遠の虚無の中に消え去ってゆく
どうしてあげたらいいのか解らない
何故人はこんなにまで哀しい存在であるのか
そしてそれはまた僕のことでもある
でも僕にはみんなの方が僕よりも可哀相に思える
だから僕は思いを尽くし力を尽くして
優しくみんなを幸せにしてあげたい
どうせ消え去る儂い身なんだ ひと時くらい苦勞や死の恐怖を忘れて楽しもうよ

だからさ
パーティーしようよ!

by ひかる 2007/11/3

「死への勝利」

医師は言った「歳を取ると死の恐怖が和らいでくるんだよ」

今日親父が言った「歳を取れば取るほど死の恐怖に慣れてくる それほど怖くなくなってくる
若いうちはそりゃ怖いよ」

今日の親父の言葉は 僕が32年間一緒に生きてきた中で聞いた最高の言葉だった

僕は最低でも六十歳までは生きる

死の恐怖がなければ僕に怖いものなど何もない

僕は全てに勝利する

by ひかる 2007/11/3

僕はいつも独り家に閉じこもってAV鑑賞 インターネット
出掛けるのは数ヶ月に一度のプロジック
石黒さんの面白く楽しく勉強になる優しい気配りのある話
物部さんも音が良くわかっていて鼻から仕事が板につける
次々と訪れる人柄のいいお客さん
新しい出会い そして再会に楽しく談笑する
オーディオ談義 世間話 人生論
帰りはいつも誰かが 石黒さんの配慮によって 免許を持っていない僕を車で送って行ってく
れる

この前は物部さんと松屋へ
牛めしを一緒に食べて 物部さんの家に遊びに行って 彼の音を披露してもらって マスタリ
ングまで教えてくれる
帰りは物部さんがちらちら助手席の僕の方を見やりながら色々な話をしてくる
人って温かい
人と触れ合うのってとても気持ちいい
だけど忘れるなかれ
会話をするのは 親兄弟 医師 カウンセラー そしてプロジックの面々
他の奴らとは一切関わるな
愛想よく話し掛けているとまた深く傷つけられるぞ
親兄弟 精神科医にカウンセラー以外とは誰とも話すな
オーディオにおいては天才 人間としては中々の人格者である石黒さんのいる

プロジックは特別さ

by ひかる 2007/11/3

「十九歳の勝利」

深夜一時 寒さに打ち勝ち 外に出て走り出す
ジョギングの最初の寒さと息の荒れは少し走っていると治まってくる
歩いたり走ったり また歩いたり
闇の中とにかく走る
駅の向こうを抜けて滝ノ宮神社まで
深い意味でもあるのだろうとお参りをして 口を漱いでいると
駅の方から聞こえてくる僅かなざわめきと静けさの中 僕はこの世に勝利したのだと確信する
帰り道は高層マンションの前にて 靴をずらすように蹴るように歩き
静けさの中に響く大きな音を悪戯心に楽しむ
僕は十九歳にして最高の思想を身に付けた
力こそ全て 全てに勝利すること 神になること
僕は有頂天に永遠に努力する事の勝利に酔い痴れる

by ひかる 2007/11/29

「障害年金不正受給」

バスの車窓から外を眺め僕は思う

これから映画を見に行く為の バス代映画代割引の障害者手帳も

症状を水増しして申告し 医師の裁量によって得ているこの障害年金も

全て穢い人間のやることだ

僕は自分自身にむかつき自己嫌悪で気分が悪くなる

でもいいんだ

僕は特別な人間で貴族だし 働かないで生きていけばいい

僕は悪心に居直った表情の目つきで しらっと外を眺める

僕は病気を口実に ぬくぬくと甘えきって 温かな手に守られて生きてゆくんだ

己が悪魔であることは忘れぬように

by ひかる 2007/11/29

(この話はフィクションであり実際の人物、精神状態とは何の関係もありません)

「おかあさん死んじゃあ嫌だ!」

おかあさん死んじゃあ嫌だ!

僕にもいつの日にか訪れる最も悲しい日

人たるものの宿命は誰にでも訪れ 哀しさはいつまでも癒えず 絶望に途方にくれる

もっと幸せに優しくしてあげるから

おかあさん死んじゃあ嫌だ!

by ひかる 2007/12/25

「ラッキーラッキーまたラッキー」

ちょっとした当たり 運の良さ
そんな事があると
僕は本当に昔からツイていて
本当に喜びだらけの
安楽な
選ばれた強運の
幸せな人生を歩んでいると感じる

by ひかる 2007/12/25

「ただいまーおかあちゃんですよ」

お母さん死んじゃあ嫌だ！

いつもの家事のときや 「仕事で疲れたー」と辛そうにしている

可哀相で哀れで頼もしくなく 嫌になるけど

いつも仕事から帰ってきて玄関のドアを開けて 「ただいまー」 そして特に意味もないのに
ハイテンションに「お父ちゃんお父ちゃん」と明るくさわぐ母は昔から変わらず元気で
パラサイトしている僕を心の奥底から安心させてくれる

でも僕 最近はほとんど毎日 お風呂掃除をしているんだよ

by ひかる 2008/2/2

「僕の姿」

ある小さな島国があった
島国は周りの大陸国家にいつもいじめられていた
島国は逃げて外に逃げていった
どんどん遠く どんどん遠く
やがて島国は誰も目にする事がなくなった

島国は自信を持った 「俺は男らしい」
島国は増長した 「俺は強く美しい」

しばらくして島国は偶然誰かに見つかった
島国は攻撃され 完膚なきまでに押し潰され 無きものにされた
相手がミストレスなら良かったがそうではなかった

by ひかる 2008/2/2

「僕は立法者」

善も悪も碌にできない体たらく（精神科医どもの妬みなど無視しろ）

こんなんじゃ爺さんに顔向けが出来ない

でも僕は詩を書いている

僕は詩によって 社会を そして世界をデザインし創造するのだ

僕は詩人だ

世界の非公認の立法者だ

by ひかる 2008/2/2

「幽霊と愛し合った夢」

20代でありながら病により醜い姿になってしまった幽霊の女
化粧で一応誤魔化している
彼女は僕に惚れた 僕も彼女に惚れ返す
僕の息子と彼女の娘みんな仲良く
彼女は僕が惚れ切らないものだから先祖を殺しに行く
先祖のせいで僕の彼女への惚れ度が低いのだ
尾崎豊 イエス ブッダ ニーチェ
霊界の秘密の中で次々と殺していく
僕も含めて誰もかも死に絶えた 彼女は一人で彷徨う
いつ消え去っても構わないのだ 彼女はやるべきことをやる
僕は彼女が愛おしく 大好きだ

by ひかる 2008/2/2

「ドーナツショップ」

「ねえ僕らの感じることは これだけのものなの」

「本当は何もかも違うんだ 解ってよ」

激しい根源的な叫び ある意味ではディオニュソス的に感じる

余りにも激しい根源的な叫びに時空がねじれてゆく

これ以上の叫びがかつてあったらどうか

尾崎は救いを根源的に求めている

僕も救いを根源的に激しく求めている

本当は何もかも違うんだ 何か救いがあるはずなんだ ないかもしれないけど

今 今性 そこに全てを情熱的に全精力を持って激しく叫んでいる

そうなんだよ 本当は何もかも違うんだ 僕らが誕生して 生きてゆく中で 僕達 特に僕は
救われなければならない

これは根源的な欲望で 決して失いえないものなんだ

僕は救われたい とにかく何が何でも救われたい

人間は救われることは出来ないのだろうか

しかし何が何でも僕は救われなければならない

どうか尾崎が叫んだように救われたい

僕は預言者になり 救世主になる

尾崎の叫びが僕を突き動かし 僕は悪魔になる 残酷な悪魔になる

僕は救われなければならない

俺は救われる

叫ぶしかない 僕の痛切な思い ドーナツショップを聞きながらでもいいから解ってよ

僕らは悲惨な存在だ 人間は哀しい生き物だ

でもどこまでもどこまでも救いを求めて本当の幸せを掴むんだ

by ひかる 2008/3/16

「最良のとき」

僕は右ウイング

極めて速い俊足を生かして 右ラインをドリブルで突っ切り

絶妙のセンタリングを上げる

そこを野球部のにっしんが センターフォワード ストライカーとして

上手にトラップし 威力のあるシュートでゴールを決める

小学校の校庭の午前十時

秋の日の心地良い天気 柔らかな心地良い微風がすーっと気持ちいい

茶色の大地は僕と一体化し 無敵の僕をトランポリンのように跳ね上げ さわやかに微風を切るように自由に走らせる

二、三ある 人生の中での最良の瞬間

僕と大地は一体化し 神々のように軽々と素早く 天才として自由に縦横無尽に 僕は天真爛漫に駆け回る

by ひかる 2008/3/16

「朝 一日の始まり」

朝 新しい一日が始まる
窓を開け 外を眺めると 広がる色々な家々
みんな寢床から這い出して 朝食を摂り
仕事に行く準備を始めているのだろう
シャッターを閉じて終日プロジェクターを見ていた僕にとっては
窓を空けた外の様子はとても新鮮
もぞもぞとした胎動が蠢く
新しい一日が始まる

by ひかる 2008/3/16

「ミーンミンミンミンミン」

去年の夏 鳴いて飛び回っていたある蝉を君は知っているだろうか
名前も無く 誰にも特に気を留められず 何をしたか どういう奴なのかまるで知られていな
い

そしてその蝉は死んだ
死んだことさえ誰にも気付かれなかった
そしてその記録は永遠に世界から抹消される
そんな一生があった
地中では長く生きても 飛びまわれるのは三日だけ
可哀相ですね 可哀相ですね
僕もせいぜい鳴きましょうか
ミーンミンミンミンミン ミーンミンミンミンミンミン

by ひかる 2008/3/16

「正午」

午睡

甘えきったぬくぬくとした気分で 窓越しに日向ぼっこ

すーっと静かな気持ちよさ

この時間は牧羊神パンも眠るという

心の鎧をはずし 光に身を任せ

僕は静かに呼吸する

by ひかる 2008/3/16

「早春の散歩にて」

冬の終わり 春の朝
薄く黄色い 夏のような日差しが
僕の頬を じりじりぬくぬくあつあつきつきつ あっためる

by ひかる 2008/3/16

「ト部病院にて」

僕はマッサージが大好きだ
子供の頃 わざと突き指し 実際より痛がり
ちゃっかり外科院まで通う

診察が終わると二階のマッサージ室へ
そこにはわりと高齢な 柔らかな優しそうなおじさん

自らの手に粉をつけ 僕の指や腕 さらにとはとても気持ち良さそうにしているのが解るのか
他の場所ま で 柔らかく優しく揉み擦る
これこそまさに人生最良のとき
ふんわりと なんともいえない心地よさ 言葉では表現できない
全身を包む 情欲抜きの快樂
僕はぼーっと外の風景やそよ風を感じ 幸せに身を任せる

僕は少年の頃望んでいた
僕は将来お金持ちになって こういう人を雇って 一日中マッサージさせるんだ
あのおじさん まだ生きてて 人を揉んでるのだから
あの快樂をもっともっと味わいたい

by ひかる 2008/4/27

「アナルオナニー」

カルピスのかき混ぜ棒を 口にくわえて唾液をつけて

アナルに浅く挿入する

横寝でもいいし トイレに逆に座ってもいい

深夜 トイレの開けた窓から 夏の夜の住宅街の雰囲気を感じさせる音がする

ペニペニをしごいていると あまりの快楽にあえぎ声を出し 体を痙攣させ僕は激しく射精する

可愛い僕はお姉さまに可愛がられ お兄さまにも可愛がられ 美少年は最高の快楽を味わう

二十歳の頃は良かったなあ

僕はとても可愛かったなあ

あの頃に戻りたいなあ

あれからマゾとか色々あったけど 今の性はつまらないなあ

by ひかる 2008/4/:27

「どいつもこいつも死んでしまえ」

誰も彼も俺を馬鹿にしゃがって
お前らに何が解る
お前らには俺の血の一滴さえ判りはしない
そして俺がいかに正しい人間で 純粋な人間でありすぎるか
貴様ら屑どもには永遠に解りはしないだろう
俺は度々 屈辱と情けない気持ちで惨めに落ち込み 悲しくなっている
俺が求めている者は一体いつになれば現れるのだろうか
やっと現れたとかと思えばすぐに消え去ってゆく
永遠に孤独であることも大いに有り得ることなのだろう
どいつもこいつも死んでしまえばいい

by ひかる 2008/5/3

no iframe

「青春 閉鎖病棟にて」

僕はあねごぶるブスな女の美点をほめる
女は困って嬉しそう
僕は目をひそめ窓の外の景色を眺める
僕は一生懸命生きている
僕は今これだけのことしか感じない
未来には何が待ち受けているのだろう
この瞬間をかみ締めて
今この瞬間を生きるんだ

by ひかる 2008/5/3

「善悪の扉」

二種類の間が 両側に対し並んでいる
その道の先には 悪の扉と善の扉がある
どちらを選べば どうなるのかもわからない
善なる側は 優しそうな男の子 温和な老人 善良そうで良い感性を持つ可愛い女の子 そし
て中崎義男まで
悪なる側は 緊張感漂う 深く勇敢な そして残忍な男たち
僕は選択を迫られている
どちらの扉を選ぼうか
今ではもう答えが出せない
しかし悪の扉を開けるのが 僕の宿命なのだろう

by ひかる 2008/6/22

「完成しなかった天才スプリンター」

僕は飛び抜けた素質を持つスプリンターだった
中退だのなんだの色々あり 高一で初めて入った陸上部を離れ 可能性を発揮できなかった
もう手遅れ 人生唯一の後悔
十七 十八の頃もそんな風に思って苦しんだものだが
あの頃ならまだまだいけた
25歳定時制で県大会準優勝12秒6
これが僕の最後の陸上人生
僕は天才的スプリンターだった
どこまで伸びるか解らないほどの逸材だった
どうしたらこのことに慰められるだろう
どうしたら納得できるだろう
どうしたらあってはならないことが起きたことを受け入れられるのだろうか
毎日毎日後悔で苦しい

by ひかる 2008/6/24

「壮絶な悲惨」

僕は今日 退屈の中で寝ていたベッドの上で動く 小さな虫を一払いで殺した
死骸はばらばらになった
僕もこの虫と同じ
なんにも変わらない

by ひかる 2008/6/24

「自宅の花壇」

苗木

水分養分をしっかり吸い上げ

大きな木になろうとしている

ま 頑張ってよ

うす紫に豪華絢爛

目を奪われる藤の花

by ひかる 2008/6/29

「美の狂乱」

あけっぴろげに何の惜しみもなく 無邪気に大胆に咲き誇る百合の花々
大輪の美の狂乱

by ひかる 2008/7/17

「輪廻」

癒しきれぬ恐怖と 諦めのつかぬ諦観の中で
僕は処刑台に立ち 顔を布で覆われ 首に縄を巻きつけられている
そして僕は究極の恐怖の闇の中で 何事もなかったように終わり
それからしばらくの間の眠りのあと 僕は再び光の中に生まれるのだ

by ひかる 2008/8/3

「助けて」

人は哀れな悲しい存在だ
苦勞ばかり悲しいことばかりで
いずれは死に 永遠の虚無の中に消え去っていく
僕もいつか死ぬ
それにはとても耐えられない
怖くて 周りも可哀そうで
ベッドの上で苦しくなり
息が切れ ハアハアハアハア激しく呼吸する
誰も助けることはできない

by ひかる 2008/9/29

「正当なテロリズム」

いつかやってやる
仲間たちのいる精神病院に武装して乗り込み
職員どもをマシンガンで撃ち殺し
仲間を連れて脱走するんだ
そして仲間や ましな人々を連れ出して
日本中の精神病院を職員ごと全て焼き尽くしてやる

by ひかる 2008/9/29

(この作品は芸術作品であり、決して犯罪予告などの類ではありません。焼き尽くしてやるだのなんだの、これは芸術的効果を狙った表現であり、そういったものを奨励、または自ら実行するものではありません。実際にこういうことを行うものでは決してありません。表現の自由ということで、作品、詩作品なので、そのようにとらえてください。純粹に作品としてだけとらえてください。)

「バイバイ」

明日リフォームするんだ

このバスタブも撤去し壊される

バスタブ君 今までどうもありがとう

君のおかげで色んな充実した時間が過ごせた

温かいこのお湯に浸かり それから風呂の淵に座り込んではずいぶん思想的緊張状態を持ち
ち 行動への勇気を鼓舞したものだ

短い言葉で申し訳ないけど

どうもありがとね

さようなら

もう上がるよ

by ひかる 2008/12/1

「しょんべんしながらうっすら思う」

僕は2階でしょんべんしながら考える
僕が求めている新しい光 新しい生き方
どうにか見つかるはずだと
そうなるかどうかは分からないけど
数万年に一人の哲学者として
仏陀を頂点とする他の宗教者に勝る 最高の至高の光を見つけられる気が少しする

by ひかる 2008/12/6

「狂気のシステム」

いつでも甦えることはできる

俺は鍛え抜かれた狂気のシステムを持っている

恐慌の 悪魔の 恐怖の 殺人鬼に

戻るべきか戻らぬべきか

正しいのか間違いなのか

もうできないものなのか まだできるものなのか

あんまり舐めるなよ 貴様ら屑ども

懐疑の海の中にどっぷり浸っていても いつでも狂気は戻ってくる

今夜寢室に押し入り 残虐極まりないやり方で 笑いながらお前を殺してもいいのか？

by ひかる 2008/12/6

「光へのスタート」

悪魔も駄目 愛はもちろん駄目
力も愛も駄目なのだ もはや魅力を感じない

僕は新しい光を掴む
光を手に入れ 僕は救いを掴み取る
僕は人々に新しい光を与える
僕は二千年前と同じくこう語るのだ
「私は、世の光である。私に従う者は闇の中を歩まず、命の力を持つであろう。」

by ひかる 2008/12/6

「虫けらの生涯」

ある動物が死んだ
僕はそれに殆ど無関心
周りの人も殆ど無関心
たまには関心を寄せる人もいるが
そんなのはいつのこと
そろそろ夏で蚊の季節だ
君も僕も肌に吸い付き血を啜ろうとする奴をぴしゃりとひと叩き 叩き潰すだろう
僕等はそれと同じ
僕はそれと同じ
死んだって誰も関心を寄せない
世界は何も変わらない
無価値な事物
自暴自棄になる気もせず
エネルギーもなく
僕は虫けらとしての生涯を いずれ終えるのだろう
ただそれだけのこと

by ひかる 2008/12/6

「尾崎浴」

一人カウンセリングは危険だ ひどく憔悴する
誰からのフォローも無く 自虐的過ぎる思いも止められず
挙動する力も出ず 僕はソファにもたれかかり
尾崎のバラード集を浴びる
雨を浴びるように 酒を浴びるように
僕は全てを委ね 尾崎豊を浴びる

by ひかる 2008/12/6

「自ら歩もう」

僕も昔日はよく神にすがって祈ったものだ

神よ助けたまえり

我今窮乏の時なり

精神安定剤にて解決する問題なれども

やはり神に祈って助けを求めたい

しかし一瞬はそんな気持ちになれても

本当はもう十分に強く賢くなってしまっており

もう神に祈れるほど幼稚な子供ではないのです

by ひかる 2008/12/19

「泣くために産まれて来た」

中上健次の小説ではいつも誰かが泣いていた
なんでか僕にはわからないけど いつも誰かが泣いていた

それとは違うが僕の見るところ
人は皆 心の奥底でいつも泣いている様に見える
日常生活や色んな災難 色んな喜び 社会の不条理
皆泣いてる 皆泣いてる

そして最後は究極の恐怖 究極の苦しみ
死というとてつもない物が襲ってくる
絶対に逃げられない とてつもない 冗談無しのヤバさ

最後は誰もが涙を流して泣き叫ぶだろう
「お願い助けて死にたくないよ お願い助けて死にたくないよ 誰か助けて——！！！」
身もあられもない姿で 涙を流して叫ぶだろう

そしてまたひとり 永遠の虚無の中に消え去ってゆく
全ての記録は抹消され 恐怖の虚無に消え去っていく

人間は産まれたばかりの赤ん坊の様に 泣くために産まれて来た

by ひかる 2009/2/25

「さらば青春」

昔の自分を思い出し 今の自分と重ねてみると
ずいぶん成長したなあって思うときがある
昔の自分のほうがやっぱりすごかったけれど
それでも今のほうが上の部分もあるし とにかく全体的にあって成長したところがある
成長ってたって そんなの凡庸な民主主義者の誘惑で 思い込まされてる部分もやっぱりあ
るだろうけど でも本当に成長した部分だってあるもの
僕は僕なりに頑張っている 頑張ってきた 墮落した部分ばかりで駄目だろうけど
こうやって安楽に過ごすのも悪くないし 中年期に向けて青春を否定して行こう
否定しきることもないけど 残すべきことも多いだろうけど
新しい自分になって行こう

さらば僕の青春よ

巨魁な物凄い日々は終わった

神秘的な体験をすることももうおそらく無いだろう

僕は大人になろう

仕事はしないけど もう大人になろう

青春への追憶にもう何年も憧れて 今の自分を情けなく感じてきたけれど

これでいいんだ

これでいいんだ

僕は大人だ

幼稚な人間は美しき死を選び 成熟した人間は安易な生を選ぶ

これからも自分をとがらせ 主張しまくり ガンガン攻めて行くけれど

あくまで一人の大人としてのことだ

青春は終わった

もう僕は大人だ

大人として新しい思想 新しい仕事をして行こう

そうすれば そんな風に模索しつつ生きていけば 救いの光が見つかるかもしれない

by ひかる 2009/5/4

「裏切り者は死ね」

僕は裏切った仲間たちを許さない

僕は誓いを忘れた仲間たちを許さない

僕は僕を忘れた仲間たちを許さない

また忘れていなくとも変わってしまった仲間たちを許さない

あの頃と同じように 心深いところの交流が起きなければみんなを許さない

また何より あの時と全く同じ 全てが全く同じまま その同じ出来事が何度も起こらなければ僕は許さない

そういう全宇宙も許さないが 特に仲間たちに対しては断じて許さない

あの時と全く同じ 全く同じ世界があって 閉鎖病棟で僕らは出会った その時に語り合ったこと 深い心の交流が あの瞬間瞬間が戻らないこと そんなことは絶対に許さない そんな世界は許さない そんな仲間どもは許さない

おそらく二度とは戻らないだろうあの瞬間 その世界 仲間たちと語り合ったこと

それら全てが戻らないことを僕は決して許さない

構わないさ いつまでも追憶の中に生き 哀しく寂しく辛く 神経は憔悴し そのまま突っ伏して寝てしまう そんな毎日を死ぬまで過ごしてゆこう

それが正しい生き方だ

それが正しい人との交わり方だ

裏切り者は許さない

世界よ元に戻れ 仲間たちよ過去と同じ所に戻ろう

さもないと世界よ お前を決して許さない

さもないと裏切り者ども 貴様らなど全員死んでしまえ

by ひかる 2009/5/4

「ヒットマン」

無敵という弱みを持った 伝説の死の商人の様
または残忍な 開拓時代の英雄 ウィリアム.マニー

俺は少年の頃 100mのリレーで80m先のランナーを追い抜いたことがある
無敵という宿命
誰がどこに現れても呼吸をするように自然に必殺する
一人で100人相手の銃撃戦に勝った事は300回しかない
女に溺れることはなく 女を守ってしまう
それでもお前を役に立てはしても お前の犠牲になったことはない
俺は神だ 俺は何百年たっても死ぬ事がない
全能者
今日も俺は無敵という宿命の元に殺し続ける
世界は俺の足元に跪いているのだ

by ひかる 2009/10/13

「倦厭」

僕の魂は額から霧の様に出ていき 塊となり廊下を彷徨う

僕は誰とも感じあえない 僕は誰とも解りあえない

僕は永遠に孤独

苦しいよ

禁断の場所に来てしまった 僕はもう誰とも付き合うことができない

それなのに医者はいつまでも僕を病気とみなさない

全面真っ白なビルに一人でいるようだ

退屈 かつ慣れもした恐怖

不機嫌な倦厭

苦しい

by ひかる 2009/10/23

「けなげで可愛い男の子」

どこにも居場所がなく
社会や人々に追い詰められ
一人家に部屋に閉じこもり けなげにも詩を書き続けている僕
僕には居場所がない
どこにも居場所がない

僕は突然変異種で 結局は滅び去るのだろう
どこからも排除され 最後には世界 宇宙から存在の資格を剥奪される
ブルータスの偉大さ シェイクスピア ニーチェ 孤独を共有できる偉人達
しかし僕は おそらく 彼らからも排除される
詩も駄目だし アフォリズムも大したことないし
没頭できない金のかかる趣味に逃げ あとは輝ける白昼夢の中で榮譽栄光を楽しむしかない

僕は呪われた存在
僕は神か獣にしかなれない存在
僕は最低だろうか最高だろうか
せめて最高だと信じさせてくれ そう信じて歩ませてくれ

僕は自分の偉大さを信じて歩み続けるしかない

そんな僕を 周りの人々が見ると しばしばけなげで可愛い男の子として 愛おしく見えるそ
うだ

by ひかる 2009/12/12

「アポロン神の加護あれ」

何よりも偉大なのはアポロン神

ディオニュソス神など滅ぼしてしまえ

法則 原理 貴族主義

ディオニュソス礼賛などあの忌まわしき神と付き合ったことのない連中がすること

まずもっては英雄主義 信長的な真正の英雄主義を知らぬ者になど あの忌まわしき神のこと
など知れるはずもない

全人類にありとあまねくこと アポロン神の加護あれ

by ひかる 2010/3/3

「現実の世界へ 美は始まる」

現実を忘れよう

妄想こそ僕の本当の世界

妄想の世界でなければ僕は生きていけない幸せになれないのだ

美しい世界を実現し 美しい生活や僕を達成し 最高の美を創造する

人生は良いもの いつ何時どこに放り込まれようと僕の世界は変わることがない

nothing's gonna change my world. (なにもぼくの世界を変えることはできない)

辛いこともあるけど 人生は光り輝いている

この美しい人生はますます光り輝いてゆく

僕は救われる

by ひかる 2010/4/16

「光の子」

俺は俺に流れている 最も高貴なこの血を光り輝かさなければならない
誰よりも高貴に生き 光を抱きつつ死んだ彼の人生を無駄にはしまい
光の宿命を負ったこの俺は 神もしくはそれを超えた存在になるだろう
新しい真理を 人類の光を見出し 俺は救われる

by ひかる 2010/7/8

「今度こそは」

僕はちょうど歌謡曲でいう「サビ」に入ったら 歌うのをすぐにやめる方がいい
大いなる才能を期待され 天才扱いにされ
それでも実力を出し始めたら早めにやめてしまうのが好きだ
自分の限界が他人にも自分にも解らないのがいい
いつも輝ける希望の星でありたい
だけど今はもう誰も僕のことを覚えてなんかいない

まあしかし100mスプリンターの実力を出し切らないで終えたことは人生唯一の後悔だな

みんな僕を過大評価し過ぎだ
僕はそんなに頭は良くない
だがそう思っているにも 大秀才に天才と呼ばれるようなことをしてしまうのだが

そんなに好きな芸術形式じゃないけど
自由詩は最後までやって行って
最高の詩を書き 様式を高めて
偉大な詩人として人生を全うしたい
もっとも他にもやりたいことは幾つかあるのだけれど

by ひかる 2010/7/22

「35歳の絶望」

苦しいよ助けて
おかしくなりそうだ
なんでこんな人生なの
なんでこんな宿命なの
格好のいいものではなく 避けられぬ敗残者という宿命
死にたくはない 死ぬのがとても怖い
頼むから誰か助けて
そしてもうそんな心の叫びに応えてくれる人などいない
老けた顔 うろんな体つきをした もう35歳の中年なのだ
もうやり直しがきかない きいたとしてもこれがベストだけど

生きていても何の意味もない
生きていても何の価値もない
人生は厳しすぎるし 負け犬にさえなれないほど 僕は弱い
僕はカスとして生まれ カスとして生きている
これからの人生にも全く希望は持てません
そんな今 ここ 35歳 人生の中間点

人生はもうどうにもならない

by ひかる 2010/11/17

「腐敗物」

桜島からの帰りのフェリーのデッキの先頭にギターケースを持って立ち
見んがために見ることの虚しさと 光の使徒の先端性に追いつかぬ攻撃 対立さえない太古の
この時代に一人気張っている

二十歳の頃の美は幻想だった
僕は余りにも早く生まれ過ぎたのだ
この世は太古 全てが中途半端だ

現在の現実に戸惑い たった少しの兆候でもと探しながらも見つかることはない
余りにきつい孤独の 干からびた心は潤うこともない
終着点は消えた

砂漠の中 心は柔らかくなり 腐ってゆく

孤独は柔らかくす.... 孤独は腐らす....

by ひかる 2010/11/17

「夏の性欲爆発」

夏のお祭り新宿～新宿～

F駅からもういたたまれない

背中をはだけた若い女

その背中を舐めまわしたくなる 首筋を 体中を舐めまわしたい

夏のお祭り新宿～新宿～

いたたまれなくなり シャワーを浴びて 性欲の赴くままに僕は夕方新宿にまで

爆発しそうな性欲をどうにかしたい

昔は深夜 田舎の遊歩道の切れ目に止まり しなをつくって男を誘った 美しい男娼 夢のままに終わったけれど

だけど今の僕には新宿がある 紫の魔都には夢の快樂が待っているのだ

夏のお祭り新宿～新宿～

僕には性のビジョンがある

夏の都会の男や女に犯され 至高の快樂に素敵な場所 風鈴でも合いそうな微風 セックスにアナル責めに狂い果て 最高の美を最高の快樂を 進化の絶頂を 世界の完成を

まだまだ狂い果てたいです まだまだ快樂によがり狂いたいのです

久美子なんかじゃ何にもならない Fでもいいから僕はいい女が欲しいのです うなじの綺麗な女が うなじを舐めまわしたいのです

夏のお祭り新宿～新宿～

とにかくまずいい女とセックスがしたい 誰かセックスさせてください 彼女になってください

Fでも新宿でもいいから電話かメールでもください セックスしましょう 全てはそこからです

新宿もいいが新宿でなくてもお祭り気分にはなれる

今でも新宿へ行けばいいことがあるのだろうか

結局何もないのかな

夏のお祭り新宿～新宿～

人生も セックス地獄もこれからだ

by ひかる 2010/11/17

「誰かがどこかで待っている」

北海道から贈られてきた フェルトの手作りのiPad入れ
母は「モノにしては高すぎるのね」と
「楽しんで使っていただけますように」と飾り付きの 素敵なお葉書き入りの作品なのに
申し訳なさとしり
僕はもう嫌になって畳に寝転び 窓から僅かに見える世界を見て
どこか遠くに僕の居場所がないだろうか
どこか遠くに僕の居場所はないだろうか
何度も呟く

by ひかる 2010/11/17

34 ・ 死の恐怖から逃れるには、
入滅すること。

スーパーマゾヒストになること。墮ちて、墮ちて、死を与えられることさえ喜びと成せばよい。どうせさらなる権力への可能性はない。お願いします、殺されるということでもいいから相手にして下さい。

人を殺しまくって支配者になれ。支配者として楽しめ。女の四肢切断、生首狩り。性交を為しつつ。

[2004/5/11]

410 ・ 俳優でない誠実な人間は行動を起こせない。

[2004/5/14]

411 ・ 読書は非常に有用なものであり、人生において決して欠かせぬものだが、自分の魂において本当に大切な局面においては何の役にも立たない。独創、自分自身にとっての真理において戦うこと。

[2004/6/3]

412 ・ 天は人の上に人を作らず、人の下に人を作らず。それでも人々に上下があるのは勉強するものと勉強しないものがあるからだ。（福沢諭吉）---大切なのは血統による魂の高貴さであって、機知、才などはどうでもいい。福沢諭吉はユダヤ的、民主主義的な卑しい人間である。

[2004/6/9]

413 ・ 偏った習慣として積み重ねられてきた行動が肉体自身の内から生まれた本能となる。言葉、理性はその本能を強めるものであり、本能を生み出すものではない。

[2004/6/25]

414 ・ 何か強い衝動があれば、自分を破滅させてしまうひどい保留性から逃れられる。

[2004/6/25]

415 ・ 現在は未来であり過去だ。

[2004/7/10]

416 ・ 僕には民衆から迫害される権利がある。民衆には僕を迫害する義務がある。

[2004/7/12]

417 ・ 僕の人生で真に価値があったのは18歳から21歳までの間である。それ以降の人生は全てただの補足である。

[2004/7/13]

418 ・ 徹底した保留は民主主義化する。何故僕だけ意見を主張してはいけないのか。

[2004/9/6]

419 ・ 愛、力、美、サティ。無限個の全ての真理は「権力への意志」と言い換え得る。流転する世界の中での、その時を得た支配的理想。真理を惜しみなく確信するがそれに屈服せず。神、もしくは悪魔として身体の衝動で世界を創造する。今の僕の真理は核ジャックへの希望を捨てず、自閉的貴族文化で楽しむこと。

[2004/10/15]

420 ・ 閉鎖病棟での僕は、まさに伝説的な、極めて優れた人格者だった。しかし時はもう帰らない。

[2004/10/17]

421 ・ 産まれたばかりで、まだ温かい新しい思想というものは、人には語りたがらないものだ。

[2004/10/29]

422 ・ 恐怖の中へ突き進め。地獄へと、歩め。

[2004/11/18][2004/11/20改]

423 ・ ラ.ロシュフコー気取りで、美しい感情を糾弾し、それがとても立派で格好いいものだと思う連中は多い。下らない奴らだ。そんなものはひねくれていて思いが純一になっていないだけだ。

[2004/11/28]

424 ・ 心の問題について触れる資格があるのは哲学者や芸術家達であって、カウンセラーなどに

そんな資格はない。「心理学」という学問などで生の人の心が解るものか。小林秀雄の言うように、精神医療は人間に欠けている、ので必ず失敗するだろう。というより、もう既に、（ことに日本では特に）大失敗している。そして世界を見回してみても「良い精神医療」などどこにもない。

[2004/12/1]

425 ・ 俺はいつも狂気の保留の元に語り、行動をして来た。両親はそれに付け込んで愚弄し続けた。僅かでも正義心があれば人はそれを見て怒りだすだろう。他の奴らも、どいつもこいつも、俺が保留をし過ぎる余りはっきりと主張しないことに付け込んで言いたい放題やりたい放題をして来た。彼らに対して俺は、男らしさ（暴力）は大事だし、そして我慢がしきれなくなった為にぶち切れて手の付けられぬ野獣の様に襲いかかった。彼らはみっともない足取りでひょこひょこ情けない格好で走り出し、警察を呼びに行く。僕は度々自己の高貴さに打たれる。

[2004/12/1]

426 ・ 物質に満たされ過ぎているとそれに気を取られてしまい、深い精神状態を味わえなくなる。

[2004/12/3]

427 ・ 僕のような人間がカウンセリングによって傷つくのは、対話していくことによって自分の嫌な欠点に気付くからではなく、――これは精神医療全般に通ずることだが――全ての人間は皆凡庸であるという定義の下に、卑しい、いわゆる「時代の心理学」、を使って高級な人間を柔らかく、極めて洗練されたやり方で破壊するからだ。

[2004/12/3]

428 ・ 社会は寂しい。みんな自分の役割を演じているだけ。仕事として付き合っているだけだ。どいつもこいつも涙が出るほど下らないよ。どんなにすがってみてもみんな氷のように冷たい。付き合い始めてしばらくは続く笑顔は、所詮は偽りの笑顔だ。

[2004/12/19]

429 ・ 地獄へと歩め、そこに天国がある。

[2004/12/19]

430 ・ よく振り返ってみると実際は苦しい事ばかりだったのに、思い出はいつも美しい、という言葉に今の内に反論しておく。久美子と過ごした恋の季節は、とても楽しい日々だった。

[2004/12/20]

431 ・ 子供が父親に逆らう事の転移として、若者は社会に逆らうと精神分析学は言う。しかしそれは社会を構成する大人の男の一人として父親がいるだけだ。

2005年

[2005/1/12]

432 ・ 詩人ははしたない。どんなことでも作品にしようとする。人が普通持っているような羞恥心に欠けている。人はあえて語らない出来事をたくさん持っているものだ。詩人ははしたない。どんなことをも作品にしてしまう。

[2005/1/14]

433 ・ 今の己の状態を正当化したいが為に、過去に犯してしまった失敗を今の「良い」己の置かれた状態への道として正当化しようとする。しかし失敗は失敗に過ぎない。場合によっては今の情けない己の状態を生み出した原因である失敗を正当化してはならない。

[2005/1/27]

434 ・ カウンセラーはいつも計算しているように見える。素朴な人間性など殆ど残っていない。

[2005/2/1]

435 ・ ディオニュソス対アポロンとは、混沌対法則、実在的な音楽対比喩的な言葉である。そこに表象対盲目的な生への意志だとか、根源的な苦痛だとか、そんなショーペンハウアー的な物を持ち込むと「悲劇の誕生」を代表とするニーチェのおかしな認識論、芸術論を生む。

[2005/2/25]

436 ・ 下品で、しかも頭の悪い貴様等は、何らかの社交におけるこの狂気のような徹底的な僕の高貴さを何も知らずにいるのか。その行き着く先は貴様等を核攻撃し、全てを焼き尽くしてしまうことだ。これもまた高貴なことだ。

[2005/2/25]

437 ・ 僕は孤独になりたくない。変わるってことは孤独になるってこと。

[2005/2/25]

438 ・ 僕は本当にくだらない人間なのか。それとも時代に、社会に言葉に負けただけなのか。

[2005/2/26]

439 ・ 人間は本来皆神であるが殆ど全てが奴隷道徳に縛られている。

[2005/3/4]

440 ・ 人間。なんて哀れな生き物だ。悲しすぎる。

[2005/3/4]

441 ・ 俺が俺であるためにはおまえと別れるしかなかった。久美子すまない。

[2005/3/12]

442 ・ 織田信長はおそらくマゾヒズムの性癖を持っていたと思われる。ああいうタイプの人間は、非日常的な世界ではきっと虐待されることに喜びを感じたはずだ。自分の経験に照らし合わせて解る。

信長のような英雄ではないが、ヒトラーもおそらくマゾヒストだったと思われる。虐待されるその対象はエヴァブラウンだろう。

[2005/4/10]

443 ・ いかにして俺を駄目にしようかと、全人類が追いかけてくる。

[2005/4/11]

444 ・ どいつもこいつも、どの団体もどの組織も、心の底から本当に下らないと思っている。世界は俺の人格から始まるべきだ。

[2005/4/29]

445 ・ プラス志向、マイナス志向、ポジティブ、ネガティブ色々あるが、どれも言い訳がましい不純な言葉だ。ただ事実があって、正しい行動をするのみだ。

[2005/5/7)

446 ・ 何故人生はこれほどまでに悲しい。

[2005/5/21]

447 ・ 数百年ののちに人類は最大の岐路に立つ。すなわち「安寧なる愛」を取るか？それとも厳しくたくましい「力」を取るか？

[2005/5/22]

448 ・ 人生は楽しむためにある。

楽しむためにあるからこそ復讐する。

[2005/5/22]

449 ・ 何をおいても人生は良い。あとは糖尿病にならないようにダイエットするだけだ。

[2005/7/13]

450 ・ 「精神科医は天才を迫害する。現代の魔女狩りだ。」その言葉を最新の学問を備えた精神科医や学者たちは子供っぽい物語だとせせら笑う。しかしそれは現在においてもなお事実なのだ。精神科医、特に臨床心理士による極めて洗練され尽くした、優しい善意による、容赦のない残忍な、人格改造。

[2005/7/16]

451 ・ 僕はよく人に「君はいつも何かを探しているように見える」と言われる。僕の祖父は 彼はいつも何かと戦っていた。

[2005/7/20]

452 ・ 今思うと学校の先生は大部分が狂っていた。正常な教師はごく一部だった。

[2005/7/20]

453 ・ 正しい残酷さを知らず、当然それを行えないのに、愛を信じているが中途半端にしかそれが出来ず、悪にさえ走る、貴様等民主主義者ども。貴様等の行う、いじめや、不条理な会社上司による薄情な真似、犯罪、人を傷つけること、など、俺は貴様等を絶対に許さない。貴様等は塵で屑で、奴隷として使役させる以外に何の価値もないのに、貴様等はお互いを傷つけ合う。卑怯な虫けら、この蛆虫ども。何らかの「力」がなければ、人は不条理なこの世界の中で没落してしまうのだろう。

[2005/8/28]

454 ・ 相対性理論は間違えている。ポイントはその理論が科学的方法に因っているところによる。視覚、科学的実験、科学的観察法、まとめて言えばその科学的思考法によるものが真理だと思込まされている。相対性理論は科学的には反駁できないであろう。しかしその根にある科学的方法に問題があるのだ。それは哲学の世界で言えばぶっ飛んだ無茶苦茶な話である。科学の役目は世界の解釈ではなく、それを哲学によって得られたものを分析すること、そして生活を高めるものであり、科学者を哲学の世界に踏み込ませてはならない。

[2005/9/26]

455 ・ 僕の、強者の自律道徳の理由は、全て喧嘩にある。

[2005/9/28]

456 ・ 僕は今三十歳。まだまだ若輩者だけど、人生生きれば生きるほど、わけが解らなくなってくる。

[2005/10/4]

457 ・ 「どうしようもない。巨匠に習う者はいつかその師から離反しなければならない。それはその者も巨匠たるべく宿命付けられているからである」（ニーチェ） 最近僕は強く思う。僕はニーチェから逃げない。逃げたくない。どこまでも「常に正しい」ニーチェについていきたい。だが逃げではなく、僕は僕自身になりたい。時は満ちた。僕はもう、僕自身になる時だ。恐ろしい残虐さと、生来の僕の素朴な非常な優しさを抱えて、僕自身の独創的な思想を見つけるのだ。

[2005/10/27]

458 ・ 思考、行為は原始の時代から非常に重んじられていたものだと思われる。人が生まれ、成長し、世界を認識するに至った時、人は度々死んでいたものと思われる。偶然の中で生まれた思考や行為が何らかの方向へたまたま偏った時、本能が生まれ、人は生き続ける事を選んだ。真理は錯覚であり、世界は積み重ねられた錯覚の妄想である。それに援助することで人は世界を成り立たせ、カオスの中で破滅することを避けてきた。ゲルマン神話の、神々の黄昏、ラグナレク。ディオニュソス。人類はそれを避け、真理、本能を維持し、美の頂点に達しなければならぬ。

[2005/11/13]

459 ・ 既に、卑しい民衆どもによって全ての言葉は穢されてしまった。今や、言葉によって何かを思考した途端に言葉は清々しさを失い、汚濁の中に突き落とされてしまう。

[2005/12/16]

460 ・ 絶対的に孤独な存在である、人間、は歌や言葉によって心を伝達しようとする。極めて愚かしい行為なれど、その優しき行為は喜ばしきことなり。

[2005/12/19]

461 ・ タイムマシンの発明は実現されるだろう。過去にタイムスリップしてみても、タイムスリップし、してきた、自分の存在は何も変わらないし、過去は、タイムスリップしてきたその時点から先は違う歴史を歩むだろう。事物は過去と未来において堅く連結されているが、この世に因果律は存在しないのだからタイムパラドックスなど起こらない。無限の別様の僕の人生があるはずだ。無限の数の永遠回帰がある。

2006年

[2006/1/9]

462 ・ 人は解りあえないからこそ、孤独を癒し合えるのだ。

[2006/1/9]

463 ・ 多くの論理は根拠なき信仰から始まっている。

[2006/1/16]

464 ・ 聖書にこうある「神の御業は謎めいている」。つまり神意などはなく、全ては偶然の賜物だということだ。

[2006/1/18]

465 ・ 俺がニーチェと比較して、勤めて原理を尊重するのは、俺が薩摩隼人の末裔だからだろう。

[2006/2/5]

466 ・ タイムスリップした先の過去も未来も永遠回帰するし、永遠回帰として起こったことだ。そしてタイムスリップをしたことも永遠回帰として起こったことだし、また永遠回帰する。

[2006/2/5]

467 ・ 瞬間ということ定義した上で言えば、次の未来の（こういう表現をあえて用いるとして）、瞬間に起きることは過去や他の未来へのタイムスリップとなんら変わりがない。

[2006/2/5]

468 ・ 想像したことは実現するし、想像しなかったことも実現する。

[2006/3/11]

469 ・ 世代や年齢の差によって理解出来ない若者を、必死で理解しようと誠実に深く考え込むことの喜び！（三島由紀夫風に）

[2006/3/15]

470 ・ じいちゃんの祈りは死んだ後も永遠に続く。僕は永遠に戦い続ける。

[2006/3/20]

471 ・ 自分が相対している人間の言っている事が間違えて自分が正しいだって？僕は自分を信用できない。他の人の目も信用できない。そして相対している奴の言っていることだけが真実になる。

[2006/3/20]

472 ・ 「事物の移ろいやすさを嘆く必要はない、海は再び寄せ返すのである」（ニーチェ）？過去の良い思い出に再び帰ることなどできない。その時も今のように、それなりには移ろいやすさを思い、一生懸命になるだろうが、まさか後で過去である今をこんなに大切に思うことなど基本的には想像にもよらない。海は再び寄せ返すとは言っても、思い出の場所に、今の情念のまま移れはしないのだ。

[2006/4/9]

473 ・ 親孝行したくないとき親はあり
親孝行親がいなくばしたくなる

[2006/4/22]

474 ・ いつだって、僕は誰にも恥じることなく徹底して高貴に生きてきた。いったい誰が僕を批判できよう。

[2006/5/2]

475 ・ 僕はカナリヤ。しかし泣き喚くには遅すぎた。日本は、この世は、発狂する。

[2006/5/19]

476 ・ 何一つ報われなくともただひたすら徳を積む。

[2006/5/19]

477 ・ 僕はある事柄について十分に語りすぎた。それは君たちが薄々気付いていることだ。しかしそれは選ばれし者にしか理解できないようになっていく。君たちがそれについて語り始めてみても滑稽なことになるであろう。君たちはアイスキュロスやソフォクレスに並ぶ、いやその悲劇の概念を塗り替えた恐るべき作品を知っているか？

[2006/5/25]

478 ・ この地上で最も忌むべき存在は3種類ある。キリスト教徒、共産主義者、そして精神科医。

[2006/6/3]

479 ・ 宇宙は恐怖の虚無である。

[2006/6/15]

480 ・ 僕の完璧主義や、特に強迫観念が、僕を混沌から守ってくれる。英雄主義へと駆り立たせてくれる。

[2006/6/16]

481 ・ 知的正直性や、保留や、貴様らの所詮は一方的な批判で、俺はもう言葉を発せないし、思考することもできない。

[2006/6/27]

482 ・ 「隠遁者は決して恨みを忘れない」、ので、彼らは汚穢の記憶の中で神経を焼き尽くしてしまうものだ。だが自然に、鼻であしらうことができるようになれば話は簡単だ。そういった説教をしてきたお前らに対しても言いたいことだ。「重力の魔――怒っても殺せないときは、笑えば殺すことができる。」

[2006/6/28]

483 ・ 人類は全滅せずに存在を維持している限り、無限の宇宙の中で新しい発見をし続ける。終わりはない。恐怖の虚無というよりは、この無限の可能性、喜び！

[2006/7/19]

484 ・ いつでも独特な僕特有のセンス、普遍的で最高級のセンスで高貴に振舞うこと。その忍耐と緊張と充実の日々は僕をますます高貴にさせ、更なる高貴さへと駆り立てる。

[2006/8/31]

485 ・ 私は少年の頃より、キリスト教の教会にて良い気分を味わったことは一度としてなかった。子供の日曜礼拝では老いぼれたくさい匂いのする老女の話のつまらなさ、そして他の子供たちの性格の悪さ、意地悪さに辟易した。大人の礼拝においても説教の内容の不可解さ、そしてあまりのつまらなさに失望した。しかし私はそれでも教会には足を運ぶようにしていた。人や物事を突き放す際の非常な慎重さはその頃からすでに表れていた。教会では人々が表面的な仲のよさ、

そして表面的な善良さをもって、嘘臭く、表面的に互いに「我らこそ善良な者」とばかりに談笑していた。私の少年の頃の灰色の退屈さは土曜日の学校帰りの家の雰囲気（父はまさに灰色の絨毯の上で、寝転びテレビを終日見ていた。）、そして教会の礼拝堂での雰囲気だった。私は16の時受洗したのだが、その受洗式をした牧師の夫が直接教えを受けたのは賀川豊彦である。私は賀川豊彦が嫌いである。賀川は彼の伝記を読むたびにキリスト教徒特有の卑しさを感じさせる非常に不潔な人物である。好感の持てるキリスト教徒は内村鑑三ぐらいであろう。キリスト教徒とはこの世に存在する人間の中で最も卑しく不潔な人種である。少しでもキリスト教に関わりのある事物や人物に接触すると本当に気分が悪くなる。現世流の教義、について疑問を言ってみると人の頭を小突き、「神様は怖くない、許しの神だ」と許されるのだから何をやってもよいのだとばかりのプロテスタント、人格を高めようとする意思の低さ。こんな汚らわしい存在とはできるだけ距離を保つべきである。どんな快感もキリスト教的な事物と接触するとたちまちの内に吹き飛んでしまう。教会など全て火をつけて燃やしてしまえばよい。キリスト教徒などは地上から殲滅すべきなのだ。

[2006/9/18]

486 ・ 共産主義は一種の宗教である。実存的問題、即ち魂の救いの問題が、もっと充実したいもっと幸せになりたいという人間の根本的な命題が社会システムや金銭、物質的なものが満ちることによって解決するという思想だ。資本主義は金銭こそ全てという卑しい経済体制だが、実存的問題については共産主義よりははるかに寛容だ。

[2006/9/19]

487 ・ 公平にどの点からみても、世界で最大の偉人は、仏陀釈迦牟尼仏である。（ウェルズ、英・作家）

[2006/9/19]

488 ・ 仏陀釈迦は、世界の最も偉大な宗教家であり、世界の光である。（ハイラー）

[2006/11/2]

489 ・ 僕は二十歳の頃空手をやっていたのだが、師範の一人に化け物がいた。人間ではない。彼は時折異様なオーラを発し、目がぐにゅぐにゅと動き、ピンと爬虫類の目になった。爬虫類の目。ちょうどワニの様な目だ。誰も信じないし、見た者も覚えていない。だがこの世に化け物は存在する。あれは人間ではなかった。

[2006/11/15]

490 ・ 英雄史観と唯物史観の融合を僕は欲している。ニーチェと堺屋太一の合体を。堺屋太一は

規格大量生産的なものとして共産主義を否定しているが、彼もまた共産主義者と同じく唯物史観だ。

[2006/11/15]

491 ・ 西○和○-----僕に敵わないものだからとにかく無茶苦茶に、しかし乏しい知識を脈略なく並べ立てる。小賢しい相対主義者として、いや相対主義をも相対化する小賢しいガキ。彼は敵わない者を敵に廻しているので勝つためならどんな強引さ、無理さをも行使する。彼は度々ひるんだ、やはり敵わないとの観の挙動を見せる。しかし彼は強引に勝とうとする。それを積み重ねたゆえにもう少しでも負けるわけにはいかない。自分の方が勝っているという虚栄を貫く為には全ての事において勝利しなければならないのだ。もうどんな無茶苦茶でも構わないのだ。彼はそのような動機からひるんだ観の挙動から強引に盛り返し、無理に勝利を堅持しようとする。背筋を伸ばし首を引き、煌々とした満面の笑顔を見せるのだ。あの笑顔！.....哀しい奴だ。

[2006/12/20]

492 ・ 全ての哲学、芸術は単なる現実逃避である。現実はもっと淫猥で生々しい。
しかし現実逃避をしていったい何が悪いというのだ。

[2006/12/20]

493 ・ 自己の意志などは全て偶然の所作である。

[2006/12/20]

494 ・ 正伝空手道の空手家たちは近くに寄ると死臭がする。このように世の中には奇妙で奇怪なことが時折あるものだ。笑顔を浮かべると歯茎がむき出しになる女性たち。三島の書いたような奇妙で気持ちの悪いものがこの世には存在する。

2007年

[2007/2/6]

495 ・ ニヒリストとは宮台の言うようにないものがあるように、つまり真理（反道徳に対する道徳でもよい）がないのに真理を信ずる無謀者ということではない。ニヒリストとは、ディオニュソス、または英雄主義（ニーチェの言うようにカーライル流の而非信長的な）が現実主義であるのに対して、反自然、反充実を志向する者達のことだ。

[2007/2/6]

496 ・ ある時、僕の隣にとっても惨めな風采をした男女が座っていた。僕は日頃、強者の戒律として同情を禁じていたが、つい彼らの方に、心を、優しさを溢してしまい、しまいには彼らにこの身の全てを投げ出してしまい、同情に殉教してしまったのだ。彼らは涙を流して感謝をし、僕を崇めた。そんな人々が僕の周りに日に日に増えていった。しかし日が過ぎるにつれ、彼らの様子は少しずつ変わっていった。以前は彼らは僕を恐れた様に接していたのに、次第に対等な関係であるかのように話すようになり、馴れ馴れしくなり、時々生意気にも僕を侮辱し始めた。もっと日が経つと彼らは僕に激しい、肉体的精神的折檻を与えるようになった。・・・・・・もう十分だ。立ち上がれ。民主主義者によって植え付けられた過剰な保留性など捨てよう。自信を持って、何の情け容赦なく、彼らを鞭打とう。豪胆に彼らを辱め嘲笑しよう。虐待し、悦び楽しもう。

[2007/2/25]

497 ・ 多くのニーチェ識者が持つ、そしてニーチェ本人にさえ認められる永遠回帰説についての間違い。-----ある瞬間、は無限の過去において無限回繰り返され、未来にも無限回繰り返されるが、その瞬間はその瞬間の中で「完結」しているのだ。再び体験することなどできない。再び体験するのはその瞬間と全く同じことなのだから、同化し、その瞬間に閉じ込められる。もはや永遠回経験したし永遠回経験していく。のちの自分の意識を織り交ぜることなどできない。時たま馬鹿者が言うような、忘れてしまった、とかそういう問題ではない。

[2007/2/25]

498 ・ 共産主義者と話していると自分の深い精神全てを伝えたくなる。そして酷い目に遭うのだ。あの柔弱さと、何でも知っているかのような雰囲気、自分の思いの全てをぶつめたくなり、そして無力さを感じさせられ、これならどうだというばかりに全ての全てを語ってしまうのだ。

[2007/3/31]

499 ・ 人類は皆、手を繋ぎ合って死という恐怖の王から身を守っている。後世への貢献名誉、称え合い繋ぎ、死という恐怖の王と戦っている。しかし死の恐怖に打ち勝つことは決してできない

。だが光はある。人類は救われ得るのだ。仏陀釈迦牟尼こそ唯一の救いであり、世界の光である。

[2007/3/31]

500 ・ 孫正義。この凄まじき男と同時代に生きていることの喜び。彼の所業一つ一つは男心を感動に震え上がらせる。

---そしてそれをもはるかに上回る電撃が来る。天を見よ。雷光をはらむ大きな雲が向かってくる。嵐がやってくる。凄まじき稲妻がやってくる。

[2007/3/31]

501 ・ 強者がもはや自己の権力を発揮できない場合、彼らは、---例えば精神障害者として---、人々から哀れみ、優しさを受けることを自己の社会的位置とする。そうせざるを得ない世の中なのだ。無論、実際は自分は強い人間で偉大であることを忘れてはならない。

[2007/3/31]

502 ・ 仮に相対性理論が正しく、非常に高速な速さで飛ぶ宇宙船の中での生活が、地球上よりも時間が遅くたつとしよう。しかしなぜその宇宙船の中にいる女性の皮膚の老化のスピードが地上に比べて遅くなるというのか。地上時間に合わせて比較した時に他の乗組員の諸体験、脳の活動が地上よりも頻繁になるというのか。小学校の一周200mのグラウンドを光速並のスピードで走れば人生経験が豊かになるとでもいうのか？

[2007/4/11]

503 ・ 絶望の中で生きるのも悪くない

[2007/5/8]

504 ・ 「死後の世界は有るとも無いとも言える。死後の世界が有ることは科学的に証明されていないが、死後の世界が無いということもまた、科学的に証明できていない。」阿呆。動物や人間の死体を見みなさいな。死がどういうものなのかわかるだろう。小賢しことを言いなさんな。賭けてもいい。死後の世界など絶対に無い。死の恐怖のあまり無謀な論をたてなさんな。しかし嘘でもいいから死の恐怖から逃れたいものである。

[2007/6/9]

505 ・ 永遠回帰の「回帰」という言葉には何かもう一度戻ってきて体験しなおせる、との意が、願望、が含まれている。同じことが回帰する。寸分たがわずにだ。今この文章を書いていること

もすべてがだ。永遠回帰される事象そのものはただ一度きりであり、そこで完結している。そう「完結している」ということを多くの低脳なニーチェ学者やニーチェ本人に言いたいのだ。

[2007/6/10]

506 ・ 両親のあの、人を見る目がゼロどころかマイナスにまで低いのはなぜだろう。僕は昔からたった一人で戦ってきた。

[2007/6/15]

507 ・ 強く生きていて、復讐や威圧などをお前は独善的だの、空威張りだの、ひねくれているだのと批判してくる。僕は正しいことしかしていないのに。僕が弱くなればみんな言いたい放題やりたい放題馬鹿にしてくる。一体僕のどこが間違えているというのか。最後には誇り高いこの人格が問題とされる。

[2007/6/19]

508 ・ 「みんな自分のことを特別だと思っていたがっているけど、実際はみんな同じなんだよ」お前らはまたやるか。今度は「個性」なるものの片付けだ。貴様らはそうやってなんでもかんでも汚らしくし無価値にして片付けてゆく。

[2007/6/25]

509 ・ 一期は夢よ、ただ狂へ。混沌の中で遊び狂う、遊ぶなら徹底的にやってやろう。彼は陰鬱なまでに権力を求める。しかし彼が本当にはその原理を信じていなかったことは、生涯にわたり何度も見せたその破滅的な態度に表れている。織田信長は超人である。彼が基本的には真理を信じ、真理の生成流転を起こさなかったのは、彼が生きたその時代によるものだろう。

[2007/7/21]

510 ・ ロックンローラーになろうとしている若者を阻む全ての者を俺は決して許さない。彼らの殆どは失敗するだろう。だからといって、ロックンローラーになろうとしている若者を邪魔するもの全てを俺は決して許さない。

[2007/7/21]

511 ・ 基本はクリーンに。（しかし原始的自然の崇高さは残しておくがよい）そしてインターネットに代表されるような多様さを持たせながら、上部構造がいかにして、上手く密かに魔法のように、ITを使った徹底した管理支配社会を創るか。

[2007/8/20]

512 ・ あの苦しい中学一年の時の夏のサッカーの合宿。永遠回帰だからまた味あわねばならない？嫌だ、嫌だ。大丈夫。もう二度と味わうことはないから。あの苦しい一瞬は、その無限の過去において永遠回起こったことだし、また無限の未来に永遠回回帰するが、その瞬間は完結しており、再び苦しみを体験することはない。ニーチェは「海は再び寄せ返す」などと言っているが大間違いだ。人生は一度きり、悔いなく生きよう。苦しみは繰り返されることはない。苦しみの中にも喜びはあるが、何より達成した時はもっと喜ばしく、苦勞の甲斐もあったというものだ。苦勞はするとよい。目的があって、それに必然的について回る苦勞なら。ニーチェの永遠回帰説はでたらめだ。

[2007/8/20]

513 ・ 本当の貴族は利他的な感情から戦争に参加するのではない。彼らは自分の領土、資産を守るために戦地へ赴くのだ。そして軍隊の兵士に民衆の率が多ければ反逆の恐れがあるからだ。彼らは民衆のために戦争に行くのではない。民衆という一種の奴隷、その使役させることのできる資産を他の国の者に奪われないために戦争に参加するのだ。ノブレスオブリージュなどおかしな言葉だ。

[2007/9/13]

514 ・ 全人類は死に対しての共同戦線を張り、半永久的に個人個人を語り継いでゆかなければならない。それくらいの事をしなければ死の恐怖にはとても太刀打ちできないのだ。

[2007/9/13]

515 ・ この世は混沌としており、人間は無限の数の欲望に支配されている。仏道にいそしむ以外の全ての人生は犬死に終わる。世界は一瞬も留まることなく流転している。外界にも自身にも実体はない。これが空である。

[2007/9/13]

516 ・ 明けることのない夜
それが今の僕の人生

[2007/10/17]

517 ・ オルテガの貴族主義は笑うべく無茶苦茶である。彼によれば市民エリートが貴族的なものとされている。ノブレスオブリージュ自体おかしな言葉だが、それを貴族がしたようにこれからは市民それをがやれば良いらしい。そうすれば貴族的だと。話にならない。彼はアメリカ人のような個人主義的の徳を持った人々を貴族的というのではないか。阿呆が。真に貴族的なるものと

は卑しい民衆とは何の関わりもない。そして市民の命より自分の命を優先する。己が彼らより価値ある存在だからだ。オルテガの文章は西尾幹二の風姿と同じように大便臭い。

[2007/11/29]

518 ・ 極めて深い精神を持つが故に仲間がおらず、時代を超えて生きるが故に、己が時代にリンクする時に覚える歓喜、快感。

2008年

[2008/2/2]

519 ・ この世で唯一価値のあるものはロックだけだ。ロックをやることは人生の中で唯一意味のあることだ。

[2008/3/16]

520 ・ 芸術家、詩人には色々なタイプの人がいるが、その自分の特性、年齢を重ねることによって生じる、精神や作品の推移。寿命、死に方。さまざまな要素の傾向。自分は今までどういう傾向があったのか、そしてこれからどうなっていくのか、先の天才たちと比べ、思いを巡らせるのは楽しい。

[2008/3/16]

521 ・ 数百億年後に地球が無くなってしまったり、数千億年後に人類が滅亡してしまうことが確実であったとしても、人々は殆ど恐怖を覚えない。それならば少なくとも数千年間、出来れば数万年間に渡って、自分の思想や作品、そして僕がどんな人間であったかを全人類に知らしめ、人類史に名を残せば、死の恐怖から逃れられるのではないだろうか。

[2008/3/16]

522 ・ 今はタイムマシンのない瞬間にいる。僕の過去もタイムマシンのない瞬間の羅列だった。未来はどうなるかわからない。タイムマシンにかかわる瞬間というものはあるはずだ。

<タイムマシンがあるならもう未来からまたは過去から来てるはずじゃないか>ということへの反論

[2008/3/16]

523 ・ ロックは全てを変えた。それまでの人間の正しいあり方----それはギリシャ的古典性だったが----をロックは根本的に変えてしまったのだ。ほとんど形而上学的な深奥から人間のあり方を変えてしまった。ロックはホメロスを押しやって人類の範になったのだ。

[2008/3/16]

524 ・ 永遠回帰とは、つまり人生は一度きりで取り返しがつかないということだ。強者は必死に生きるだろう。出来るだけの充実を求めるだろう、そしてそう意欲するだろう。弱者は忸怩たる念がありながらだらだらしてしまうだろう。永遠回帰でなくてもだらだらするだろう。別に永遠回帰だからだらだらするということはない。-----ニーチェの、永遠回帰説が弱者に及ぼす

影響、についての批判。

[2008/6/22]

525 ・ 全ては偶然に支配されている。いけるところまで突き進め。賢さと強さで。奸智と勇気を携えて。

[2008/6/22]

526 ・ 色々な努力や英雄主義などの巨大な思想の遍歴から、僕は極度の強迫観念の徒に成り上がった。

[2008/6/22]

527 ・ ビジョン---僕は悪魔なのに、人類を救う力が唯一あるため、悩んだ末、人類を救う。愛に零れる。そして人類は僕に敵意を向け、僕を殺す。取り囲まれた時、僕は仕方なさで慈愛を持って人類を見つめ微笑む。もう一つの道とは、僕一人だけ生き残るということだった。

[2008/6/22]

528 ・ 時は金なり----？ 金より時間の方が断然大事に決まっている。

[2008/6/22]

529 ・ 僕の風貌の特徴からか、みんな僕に説教ばかり。うざい。話しかけるな。死ね。

[2008/6/22]

530 ・ 中庸には強さが付随する。ギリシャ人は極端に走る傾向が強すぎたために中庸を高く評価した。中庸とは安楽な適当なのんびりした性格のものではない。中庸には強さが付随している。

[2008/6/29]

531 ・ ニーチェが言ったように「偉大な哲学者の後には一群の賤民が現れ、彼らが効果を挙げることによって偉大な哲学を台無しにする」ものだが、ならば効果を挙げねば良いと、現実社会、そして日常としての現実、最も生活に密着した現実、に何の影響も与えまいと、宙に浮いた下らない現代思想に走れば良いというものではない。

[2008/9/29]

532 ・ 僕はよく人がいいと言われる。頼まれると断れない性格だと言われる。だがそれは相手に

好印象を持たれたい、悪い印象を持たれたくないからなのではなく、相手に、その人に優しくしたい、幸せにしてやりたいというある衝動のようなものからなのだ。豊満な魂を持つ者の、満ち溢れる人間愛。

[2008/9/29]

533 ・ 死人のような寝顔をしていた貴方の言うように、友は皆裏切るものだった。

[2008/10/9]

534 ・ いろんな思想、いろんな考え方があるけれど、結局決めるのは自分。どんな説でも、最後には自分一人の世界の中での、自分の、誰にも反駁を許さぬところの、賭けのような判断。その信念でもって決断が為される。

[2008/10/9]

535 ・ 愛ではもちろんない。そして悪でもない。「光」は悪の上に立つものではない。全く新しいものなのだ。

[2008/11/18]

536 ・ 神、悪魔、幽霊などは存在しない。なぜならそれを認識した人間は、人類史上一人もいないからだ。

[2008/11/18]

537 ・ 自然は善悪に無関心だ。だから僕はディオニュソスとして生きる。またこの現代の危機、社会主義的危機、永遠の日常が達成された民主主義社会。この恐るべき凶暴な発端を利用する。アポロン主義、貴族主義者として。

[2008/12/1]

538 ・ 「死は体験できない。」？---彼らが言うに、生が終わってゆくことを認識できるだけで、死んだ時はもう認識できないのだから、死は体験できないのだと。頭でっかちの愚かな話だ。死は体験できる、今に死んでゆくことを認識しながら死んでゆくのだ。自己の消滅を体験しながら死んでゆくのだ。永遠に虚無の中に消え去ることの恐怖を感じながら死んでゆくのだ。死は十分に体験できる。

[2008/12/1]

539 ・ ----死後の世界はあるかないかわからない。なぜなら死んだ人はもう生の世界に帰ってこれ

ないし、生きている人は死んでいないのだから死後のことはわからないからだ。----- 100兆円賭けよう。死後の世界など、絶対に無い。

[2008/12/4]

540 ・ 死の問題ほど重要なものは他にない。死というこの恐ろしい、とてつもない恐怖は、人生において最も深刻な問題である。それさえ克服できたら（死から逃れることができれば、またはせめて死の恐怖から逃れることができれば）人生は気楽で楽しいものとなるだろう。

[2008/12/31]

541 ・ キリスト教ではなく、今度は民主主義によってヨーロッパ中世のような世界的な恐るべき暗黒時代が訪れる。魔女狩り、火刑は精神科医達によって為される。天才たちは恐るべき自己貫徹をなすか、徹底的没落に沈むか、二者選一を迫られる。前者の場合、厳しい緊張の中にも高い幸福感を得ることができ、後者の場合、安楽で平和な生活の中にも良心の呵責に苛まされ、結局のところ没落することになる。15世紀、イタリアに端を発したルネサンスの時代に似ている。ダヴィンチか、気味の悪い終末の絵か。

2009年

[2009/4/1]

542 ・ 友人や仲間たちの裏切りという問題において、「前向きに生きる」というのは大きな不誠実である。そういう奴らは人間的に欠落している。しかし殆ど全ての人間はそういうものなのだ。

[2009/4/14]

543 ・ ニーチェが言うところによると、真理の中で生きるには天才を要するらしい。ディオニュソスが実体？本当は混沌？所詮真理など表皮で表面的な、嘘？ごまかし？---いや違う。これらの発言を含め、全ての混沌的な思想はただ間違いであり、原理的真理は100%正しいのだ。ドームでさえないドームで、いやドームではない、全てに開かれていて、どこまでも開かれていて、アポロンに守られた、それもディオニュソスが間違いだからこそ、間違えたものからアポロン神によって守られていた。人類は2500年前、ギリシャのアテナイにて美の頂点に達した。そんなドームに守られた強く美しい世界があった。原理的真理の美しさ。原理的真理の、絶対的正しさ。

[2009/4/14]

544 ・ 僕が放送大学で古代ギリシャ哲学を学んでいた時、ニーチェが勧めるヘラクレイトスの他に、何かある、と注意を向け好意的な興味を持ったのはパルメニデスである。彼には超ひも理論や、アポロン神の大切さ、僕の新永遠回帰説、ひかる主義に繋がるものを持っている。パルメニデスには僕のように混沌と法則の間で苦労した痕跡がある。あるからある。デカルトのそれでもない、崇高な「あるがゆえにある」という真理。パルメニデスはヘラクレイトスよりも魅力的だ。思考法など深い所に親近性を感じる。

[2009/4/14]

545 ・ いつも若い頃の事を思い出すとあの頃に戻りたいと願うけれど
そんなに幸せじゃなかったかも 今より不幸だったのかもしれないと思うくらい。

[2009/5/4]

546 ・ ニーチェは数学という教科が非常に苦手で、理解することが全くできなかった。学校でも数学においては落第級の成績で、いつも赤点だった。だが他の成績があまりにも素晴らしいので特別に卒業させてもらい、学士の資格を取った。彼の思想の詰めの甘さ（永遠回帰などにおいては）はその数学の学力の極端な低さに起因しているのではないだろうか。彼は正確さより、効果、や美を重んじている。三島などのような気持ち悪さでない、最高度の、溺れ死ぬような、大空を飛ぶような、美と力と精神性と、高貴で品性の高い、幻惑の、戦慄が走る、魔的な文章。

誘惑や悪意に満ちたあの文章に誰が抗えようか。彼自身の言うが如く人類史上最高の書物を書いた、人類史上最高の精神的天才である。僕でさえ決して勝てないであろう点は数え切れない。---ただ僕は光とでも呼ぶべきか、何か物凄いものを発見する、ある種、数万年に一人現れるかどうかの物凄い使命、運命を帯びて生まれてきたのだと思う。自分自身に時折、異常な偉大さを感じる。僕は自分自身を救い、人類も、無限の広さ、無限の時間の中の、宇宙生命体をも救う。この世界は時間も空間も無限である。そして全ての存在を（無機質も）光の中に、一種の天国のような居心地の良い場所に移し、その素晴らしさを感じさせよう。そしてこの世界を完璧に、光の中に救う。世界は光になる。無限の大きさ、無限に続く時間として....。つまり全ては光として、永久に包まれる。至福の境地は訪れる。僕は、僕らは救われるのだ。僕ら自身も光になるのだ。

光の中へ。

[2009/5/4]

547・自分が相手の格好いいところに憧れて模倣したのに、その真似をした当の人物の前でそれを披露するような人たちがいる。中には更には模倣した相手の前で、「こういう格好いいところを見せつけられると悔しいんだよなあ、わかってるんだよーん」、なんて言う奴もいる。そしてこれはある知人のことである。彼は僕が初恋の人の写真を大事にしている、愛の素晴らしさを語り、写真を抱きしめたりしていると何故か彼は何も言わずに、泊まりの朝、食事のことで僕の親が呼ぶ声も無視して、さーっとでていき、さーっと自転車でどこかにいってしまった。普通あり得ない凄いことを言おう。彼は僕という男のかっこいいところを見て、憧れて、強烈な劣等感を感じ、悔しくて、出て行ったのだ。そして彼はそれを一生懸命模倣し練習してくるんだ。そして彼に数週間ぶりに逢えば、彼は間違いなくその話をしてくる。「やっぱり愛がなきゃな。愛こそ全てなんだよなあ。愛がなければ全ては虚しいんだな」そういうことをレストランの中で大きな声で言うから、僕は恥ずかしくなり「もういいよ、人前でそんな・・・」という、彼は言う。「ああ、そうか。そういうこと聞かされると悔しくて嫌なんだよなあ。わかってるんだよーん」。（独特の「しめた」という調子に乗った笑顔で）

[2009/5/11]

548・鳩山由紀夫の生涯の夢は暗殺されることである。

[2009/5/11]

549・永遠回帰について---再び繰り返されることなどないのだから、たくさん苦労し、成長しよう。

[2009/5/11]

550 ・ セルシンを飲んだ後の不思議な暖かさ。少し眠気がして、冬でも、いつの日か経験したような幸せな家庭文化。

[2009/5/11]

551 ・ ドーナツショップにて尾崎が求めた本当の救い、光、を僕は手に入れてやる。

[2009/6/22]

552 ・ 精神病院の閉鎖病棟にて3か月を過ごした僕は、この国の本当の姿を知っている。この国は何らかの意味で、滅びる。滅びなければならないのだ。その恐慌の後、いつの間にか夢から覚めたときのように、はっと気付くと当たり前のように、まともな開かれた社会が訪れている。

[2009/6/22]

553 ・ 残忍さは意識を鮮明にする。

[2009/9/6]

554 ・ 人というものは、親しくしていた知人が急に元気に強くなり、視覚的にも大きく見えるようになると、その知人を狂人とまで呼ぶようになることがある。そうすることによって劣等感を誤魔化すのだ。

[2009/10/28]

555 ・ 僕の偽りの愛の言葉を見抜けずに、セックス中、愛の成就に浸りきり、幸せを噛みしめている彼女----女の死体との遊戯。

僕は早にマインドコントロールされている。魔術師、僕の心の全ては彼に知られている。発狂、頭の皮膚が麻痺する。

[2009/12/13]

556 ・ 当たり前前にニーチェに負けていて、それでいてニーチェから離れ、彼のことを無視し、まるで自分たちのしていることが間違いではなく、正しいことなのだと誤魔化し、墮落した生活を送る。アル中、ネット中毒、運動不足、肥満、アナル狂い、マゾなどに落ち込み、それでも居直るように、我は正しく、かつ偉大なり、と豪語する背筋の曲がったうろんな目つきの中年。確かにかつては偉大な人間だったのだろう。でも今は違う。

[2009/12/21]

557 · 私は α であり Ω である。

2010年

[2010/1/16]

558 ・ 私やニーチェについて学んでいる時、本当に自分は彼らに正しく従っているのだろうか、褒められているようで一方では責められる。。そんな迷いがある青年に私は言ってやりたい、「大丈夫だ。安心しろ。」

[2010/1/16]

559 ・ 古代ギリシャ人は法則と混沌の、非常に微妙な関係によって、極めて高い文明文化を築いていた。アポロンとディオニュソスの関係、その両極端性、そして融和。これほど高貴で素晴らしい文化文明を持った民族は人類史上類を見ない。人は時にはディオニュソス信仰に入らねば狂気に陥ってしまう。しかしディオニュソスとは恐ろしいもの。避けるべき恐ろしき恐慌。アポロン神を掲げ、貴族主義に心を保ち、アポロン神と共に生きてゆくのだ。ギリシャ人の聖書であるイーリアス。それを詠いポリスを創造したホメロスという天才。ありとあまねくこと全人類にアポロン神の加護よあれ。

[2010/3/26]

560 ・ 何も変わらない。結局何も変わらない。織田信長のような天才が出現し、革命に成功したとしても僕らの生活は殆ど全く変わらないだろう。政治、社会なんてそんなものだ。

[2010/3/26]

561 ・ あの物凄い悲劇作品を理解する者は日々その悲劇を体験するだろう。

[2010/4/16]

562 ・ 多くの人は哲学についてそんなものが何の役に立つ？何になる、無用じゃないかとかぞって否定してくる。これを指して典型的な、「俗物」、と言う。

それなら例外者的な物言いや素敵な格好に憧れ、のちには考えを改めるくせに特別な人間ぶるのはやめたまえ。どうせ例外者的なものを片付ける過程なのだろう。そういうぶっ殺したくなる屑どもに何度人間なんて皆同じ、と聡しげに説教されたことか。

[2010/6/26]

563 ・ 人生は一度きりであって、瞬く間に年月は過ぎ去ってしまうのだから、以前母が言っていた様にできるだけ楽しいことを考えて過ごしていった方がいい。嫌なことばかり考えて不機嫌に過ごしていても何にもならない。そんなのは馬鹿げている。大損だ。

[2010/6/26]

564 ・ 俺は愛することよりも傷つけることの方を楽しいと思った。このことから全ての道徳が反駁される。

[2010/7/8]

565 ・ 俺は何が特別な異常な偉人を作るのかを覚える。それは気違い染みた、異常なまでの頑固さだ。

[2010/7/9]

566 ・ 一度でも英雄であったことのある者は、その後辛い毎日を過ごすことになる。「今のお前の生き方は間違えている」と四六時中責めたてられる。悪魔であったあの日々は充実していたが、今ではいつも不全感が付いて回る。新しい生き方？新しい真理？確かにそれを探すしかないが、そんなことも英雄主義からの逃げに感じてしまう。悪魔に戻るべきか。しかしそんなエネルギーはもう無い。では逃げかもしれないが逃げと思わず、それが自分の道を歩むことだと思って大人の感性に従って生きてゆくべきか。どうすればいいのだろう。もう何もかも分からない。

[2010/7/12]

567 ・ 裸の王様というのはたくさんいる。日本や他の先進国、また新興国などの殆ど全ての人間が裸の王様だ。そして皆、お互いに綺麗な服を着ているとお世辞を言い合っている。そこに本当の、美しい着物を着た本物の王様が現れると、複雑で絶妙極まる徹底的なやり方、言わば究極的なやり方でその人の根本から全てを粉々に粉砕する。皆に蔑まれ、虐待され、辱めを受け、孤独に悩み、誇りや自尊心などは粉々に粉砕されるだろう。まあこういう穿った皮肉な言い様もまた上手く片付けられてしまうのだろう。

でももっと、普通な物語としての裸の王様というのも実際にいるものだ。ある流派の空手の師範がそうだった。皆から崇拜され、または尊敬されていたが、僕は彼が人間ではなく化け物であることを見抜いていた。矢田さんくらいの、まあ取り敢えずは立派な人なら何かそれなりには感じていたかもしれない。あの人は彼の僕に対しての行き過ぎた無礼な発言に対して疑問を持ち、「ああ、空手はまだまだだけどひかるさんは色々と良く考えている感じで偉いなあ」、とか、化け物との約束組手においてあまりの無礼さに見ていられなかったのか、よく一礼して化け物との一対一の練習に割って入ってきて稽古をつけてくれた。

[2010/7/22]

568 ・ 憎め、憎め、大いに憎め。それは怒りとなり、巨大なエネルギーとなり、勇気と、素晴らしき陰湿な卑怯さを生む。憎しみは大事を為す。一般にネガティブと呼ばれる感情はとてもポジティブなものだ。英雄主義もダークサイドも悪魔的な強さは美しい。ルシフェルは魔王であり

、同時に美しき殺害の王子だ。つまり美少年、もしくは美青年だ。エホバ（ヤハウエ）は老いており賢そうな風貌をしているがなんの面白みもない。魔界の王子、殺害の王子、魔王ルシフェルこそ、刺激的で最大の権力者だ。殺せ。大量に人を殺せ。大量殺人もまた美しいものだ。僕の夢は四肢切断した女をイカせながらギロチンで生首を刈り取り、美しい女性の生首を（性的快楽の極みの悦びの表情をした）巨大な冷凍貯蔵室に何千個もコレクションすることだ。ああ、美しい僕を食べてくれ。ああ美奈子、君の切り離した肉体は美味だ。僕は生きている君の前で切り離したその体を食べたね。おいしかったよ。そしてギロチン刑。殺せ、殺せ、殺せ。スーパーサディストの欲望がこの文章を書いても高まってくる。みんな、美しく可愛い僕を食べて。そして女ども、僕に犯され生首を頂戴な。狂気もまた人生の楽しみ。一つの幸せな秘め事。一つの良き趣味なり。

[2010/11/17]

569 ・ 精神科医が外科的にこちらを見つめ観察する時の目つきへの恐怖と、なんだか安堵感。カウンセラーはいつも相手の心を優しく見つめている。

[2010/11/17]

570 ・ 狂った卑劣な得体の知れない海。優しさでも残忍さでもカオスでもない。本人が自称する如く人格破綻者。骨のない出来損ない。先天性精神障害。というよりもはや身体障害と呼ぶのが相応しい。異常な脳を持って産まれた奇形児。身体も内部奇形。生殖器を始め多くの器官に先天的な異常が見られる。一切の人格を持たない病的なカメレオン人間。その変身の見事さよ。自称する様なディオニュソス等とは何の関係も無い。

[2010/11/17]

571 ・ 多くの人が自殺を考える。そして多くの人がぎりぎりのところで這いずり上がってきた。結局望みなどどこにもないのだが。ただなんとか生き続けて、そんな屈辱を味わうことさえも出来なくなった敗残者として、今日もただ生きている。尊厳など殆どありはしない。負け犬。蛆虫。

踏みにじってくれ。そこに性的快楽を感じる。だけど性欲も枯れてきた。まあ虐めてくれれば勃つかもしれない。でも誰も虐めてくれない。気持ち悪がって。いやただ関わり合いたくないだろう。

[2010/11/17]

572 ・ 世界は流転していくけれど、別に僕が創ったわけじゃない。神はいない。

[2010/11/17]

573 ・ 宇宙の時間は無限であり、人類はその存続を保っている限り無限に新しい真理、新しい価値感、新しい美、新しい現象を認識していく。この無限の可能性の喜び！これがニーチェのいう悲劇的なもの、ディオニュソスの快楽である。

[2010/11/17]

574 ・ 人の心は弱いもの……。好きな人が幽霊を見た話をした。一一疑いたくない。素敵で、正直な心を持ったあの人を信じたい。だから怪談、幽霊のことを信じて本気で恐がり、毎夜毎夜をびくびく震えながら過ごす。あの人のが嫌いになった。一一馬鹿馬鹿しい、幽霊なんている訳がない、と勇気を持って迷信を嘲り飛ばす。

幻視の可能性もあるけど。

初音ちゃんは会えなくても家族のようだ。僕の化け物体験、信じてくれるだろうか。いや相手にされないだろうな。ちょっとしつこくしたらすぐ嫌われ、永遠の無視。でも性格いいからなあ。大好き。

[2010/11/17]

575 ・ プロメテウスは火を盗んだ。それは原理的に進歩すること。そうすると原理は破滅し(進歩すれば極点で破滅する)、カオスになる。頑張っては破滅し、頑張っては破滅する。神々の世界から火を盗むことによってゼウスの怒りを買ひ、岩への捕縛をされている時、鳥に食べられてはまた内蔵が生え、また食べられては生えるという神話に重なる。(わざわざ内蔵が生えるのは努力しようという原則がある)しかし岩から解縛するためにゼウスに謝罪するととんでもないことになる。火、原理を放棄することだから。謝罪した瞬間プロメテウスは死ぬ。

[2010/11/17]

576 ・ 共産主義者は人の魂のことよりも金のことばかりを考えている。マルクスからしてそうだろう。哲学者の、現実の世界創造からして「ただの解釈」と呼び、庶民の生活が楽になる社会的革命こそが一番大切な現実そのもの、とする。

——「哲学者たちは世界をさまざまに解釈したにすぎない。大切なことは世界を変えることである。」(マルクス)

[2010/11/17]

577 ・ 跳ねるような未知の認識というものがある。しかし一步一步登って行くしかない。新しい、ひどく逸れた認識というものは存在する。

[2011/5/9]

578 ・ 僕がキリスト教徒だった頃、どんなクリスチャンに会っても仲間と感じたことは一度も無かった。無神論的に愛こそ真理だと思っていた頃は勿論、普通に神やイエスを信じていた頃もそうだった。また礼拝の説教で理解の及ぶ類のものを聞いたことも一度も無かった。

[2011/5/9]

579 ・ 人生は悲惨だ。無茶苦茶に悲惨過ぎる。みんなも俺も悲惨極まる。凄惨だ。

[2011/5/9]

580 ・ レジ業にも面白味がある。どんなに恐ろしい奴でも無防備に、遠慮気に弱々しくなる。善良にもなる。

[2011/5/9]

581 ・ 俺は白昼夢を見続け、一生を終える。

[2011/5/9]

582 ・ 遠く先が見通せるのは物事の本質を掴んでいるからだ。あしろうように扱う現在も間違えない。根本が見えているからだ。

[2011/5/9]

583 ・ 誰も僕のことを解ってくれない。僕はあらゆる表現手段を使って自分の全てを伝えているのに、酷く孤独だ。僕は狂っているのだろうか？僕にはどうしようもない孤独がある。想像を絶する孤独だ。思慮ある者は、ローマの獣の暗号を解くがよい。